



茶陽三卷書
人

梅嶺軒文庫

ヲ多g
2034
3上





茶之湯道具之字少、記之為昧者悉

臺子或化 茶湯棚 腰屏風或高 一枚板或拵 擔

釜子或取 圍爐裏或 窟土或 火鉢或 軸或 風

爐或奈 頰當風爐當世 遠足 軸足

灰粒 豆粉灰當世 遠足 軸足

炭 橫山炭泉列 內裏公方御所ノ炭宮女手

直取テ置之手不汚故賞之昔每日運上小野炭

鞞馬炭 下庫炭楳州多田

炭計浮壺便 當世炭計是ヲ為好茶座ニ謂之瓢瓢

者呼其同姓者田舎謂之浮壺便者稱其德者也德

者其能乾中空者以漆塞其口塞而今無隙而入之
水中但浮不入雖用力推入不沉也具之于身則落
水不溺古人云中流失船一壺千金云是十リ得
其不死之便故曰浮壺便也壺五音相通便野人短
舌也

文火攪文火炭火也
武火炎火也

火筋或象眼
或鑰石

鐵箸用極
古物

高

嚴箸

釜 鼎 鑊子 真釜 肩衝釜 圓釜 茶磨釜

龍釜 二重釜 富士形 覆龍釜 婆口 折葉

几帳面 撫葉 篋蒙 平釜 茶屋釜

靠釜 鶴頭釜 極古釜 新釜 鑄膚 鑄懸

朽目 荒膚 霰 梨膚 撫膚 鐵班 鐵色

音曲 鐵氣 釣物 系底 沙糖壺裏小瓶

下水 水覆 合子 骨吐 棒頭 鈴塞底ノ穴

茶飯裏當字ナリ高麗
惣食器之也 籠蓋 鷓口古餅磨
松鉢也

蓋置 隱架 甫也香爐 當字ナリ甫也 正字ハ石

花也其勢海中著テ石有之生類ナリ如柚橘之色

赤小尖多容似草荔子有蔓連生取テ破之中香汁

風味甚好出羽奥州多有之入皆翫食名曰石花香

正 炉蓋似石花片故曰石花香炉也云 經筒 蟹

五德盆 方盆 圓盆 曲物盆 二入之盆 刻物

盆 堆朱 堆紅 堆烏 珪璋 金絲 二重刻

剔紅 松皮 犀皮 存星 為色十リ或ハ 推金

金紋者荔枝唐草紅花綠葉牡丹芙蓉花鳥屋休人

人形松雲巖水山樹等無限裏者折入菱洲濱累

或化屈輪 作者楊茂張成周明盧補是皆於海昔

盆内建盞 油滴 輝卞 柿生 兜毫盞 銀各有天

目 灰蒙 黃土黑銀如霜或有 只天目 黃天目

黑生 赤生 玳皮盞 金覆輪 有鏤 軟鏤 覆

輪 瀬戸 天目 尾出之 銚石 或錫或銀覆輪十

有臺 青磁茶碗 端刺 或蒙花故 巴茶碗 鉢茶碗

大譽故 瑠瑠椀 堀出茶碗 鶉飼茶椀 花形

也 白茶碗 高麗茶碗 高中茶碗 當字高中ハ國ノ

刺臺 五葉花形 堆朱堆紅 菱花臺 黑臺 三所覆

貝臺 貝曰研螺見本草石交明之条註曰研音誦

スルナリ螺ハ光石也 云 云

光明朱 玳瑁 花梨之木色 黑柿瓣臺

小壺碾 茶壺 茄 圓座 老茄 尻臆良 自昔

有此名見月山茄子之繪有茄子似尻臆良彼化壺

者象茄則吾茄亦可象共渡日本於此長茄為下劣
号尻膨良昔能阿相阿皆曰小壺知茄形盱要少違
者非茄也云云故後來之數奇者尻膨良為不可手
取不可論價正茄為價貴昔為百貫後為五百貫三
百貫近歲甚增進奈良之小茄為二千貫既下阿就
百神若出以三千貫可買之人有數輩日本之風俗
異哉 圓壺 肩衝或有圓座 大開或有圓座
開之字化 入海大開ノ小者 烏大開色黑 文
林 文林之字諸人區區論之予對慶山問文林之
字山云文林予不信思只其所知之字取合言之其

後予見本草之草部有文林郎子註人文多故取意
云文林郎者行河邊見樹一株流末取植之繁榮而
結子其味耳不知其名故文林郎之名付菓自此流
布于世云云彼化壺者象文林郎子其形似木瓜故
層不滑轆轤目荒化也聞奈良之筒井所持之文林
上品也土燒出朱多赤故名緋玉垣 束形
樽形 勢子此二壺有相阿繪圖之內 鶴頭或有
驢蹄 湯桶壺 飯銅壺 常陸帶 弦壺
搗茶 按陸羽茶經凡化茶者從焙炉取即藥研研
之或茶臼舂之或雷盆搗之抹化團茶也礪茶者搗

木之頭也故引義目頭刺鉸故形化付也插茶若
書木篇則可知引物也慶山有雜談頭切金輪寺
於頭切同勝軍木茶筒黑漆茶筒化藤重桐油

一 袋 金鑰 金地 縫金 鈿金 鍮金 金紗

金羅各小 蜀江錦 邯鄲布細有 唐綾 唐

綿 段子 縐子

一 裏 紫北絹 薄淺黃 朽葉 練緒 采線紅

也 茶深糸褐色

一 茶初葉曰茶 宇治之無上森祝宇文字朝日是四之

名園出之此外諸并兩野出化茶非無上也別儀昔

八無之此茶文明之頃誓願寺ノ北有筆屋亭主茶

湯數奇超世有時以無上一袋迂披淨朱和阜之上

以細箸撰今好葉取袋碾之興行茶會請待珠光松

木志野道庭令喫彼茶曰此茶非常之無上何乎亭

主語吾所化之樣皆稱羨感之此茶可謂別儀即命

宇治之茶家訛之而用尔來流布曰別義也彼筆屋

茶會之日家内掃除畢後布ノ幕ノ長久廣水濕夫

婦兩人引張之行迴家内曰取空中之微塵人見之

曰茶狂也搦碎簸屑山茶柵尾摘合也二袋茶摘合

之次也奈良之雨前左保之園穀雨ノ前搗之尾張
淺野并伊勢神部并有好茶

一茶勺 茶瓢 茶匙 象牙茶勺 竹茶勺

昔ノ數奇有周德所化之竹茶勺當世翫之為名物
揉竹有習羽淵壽廣ニ傳テ削竹茶勺亦人ノ賞物
也

一茶巾 曝布 越中河上 天留布 當世天留ハ

高麗郡ノ名不知其字雜巾手把唐ハ為手拭此ハ
為雜巾

一茶篋 奈良茶篋 幡枝 沫切 尾張并加賀昔

下都天香申直孟終日 武津 示全書

用今不廢

一茶磴 祇陀院 昔ハ此寺有一茶京極門前有石

匠能切磁礮磨出好磨謂之
伯佐磴 自丹後出星磨有白点如星或如海梅花

一葉茶壺 真壺 蓮花玉礮 數奇者所言清香或

此 遠山肩以篋鏡畫連山之形裳野腰下畫連山
之形已上二類好壺也或ハ及真壺者亦有寫壺滋
賀樂壺或有持出真壺ノ異氣雖名壺多無如松寫
三日月之粉色厚味法異氣鼻香也

予之小芽育子歲十七其父宗節以為當世數奇泉

所愛之茶具鬻代之日賤之中媒媒常有都鄙知已之音耗書信其報札必命育子令書之其書中有茶具之名則閱筆未問其字於予故予集茶具之字記而與育子也然予却想當世數奇者俗漢皆文育也書中茶具之名以文字書則不得讀而可欠其用以假名書則其用即可調成故予示育子曰茶具之名宜假名書勿文字書若有討茶具之字人則當以此書所記告之故此書名備討集亦相茶之湯具物之類香子非博知雖問識者記之尚可有所漏并其文字未練可多况有當字外見所愧也

于時天文申寅孟秋日

扈軒

示全書

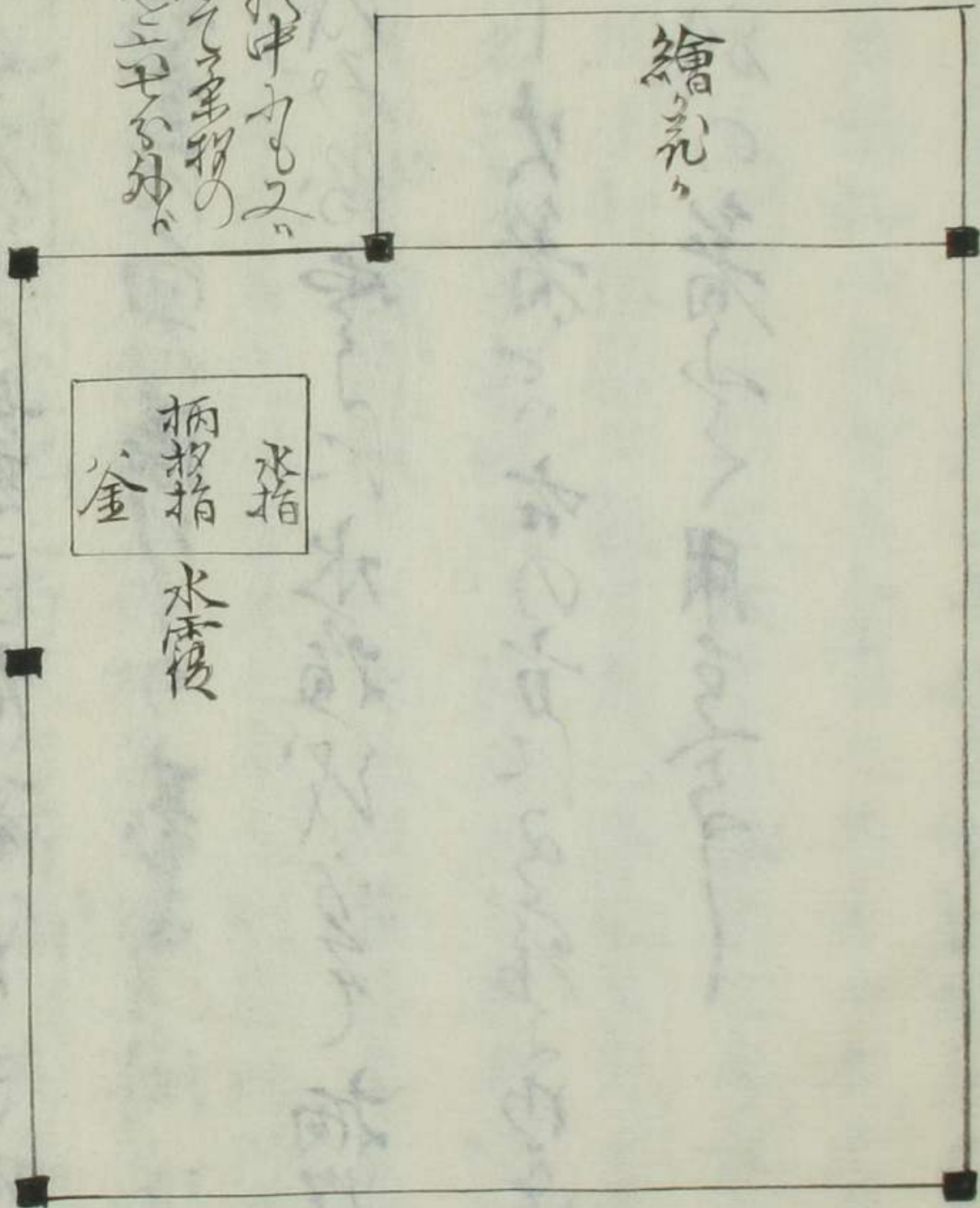
此圖ハ四角ノ字之座補也如斯困於裏中者時を
子又ハ一枚板杯立た向の張けり其まは同字
命り小角の張みは字に水指張方そ柄抄大
著るまはへハ火著る右の方にまねるははに
火張をまは列の著るまは用をまは

床

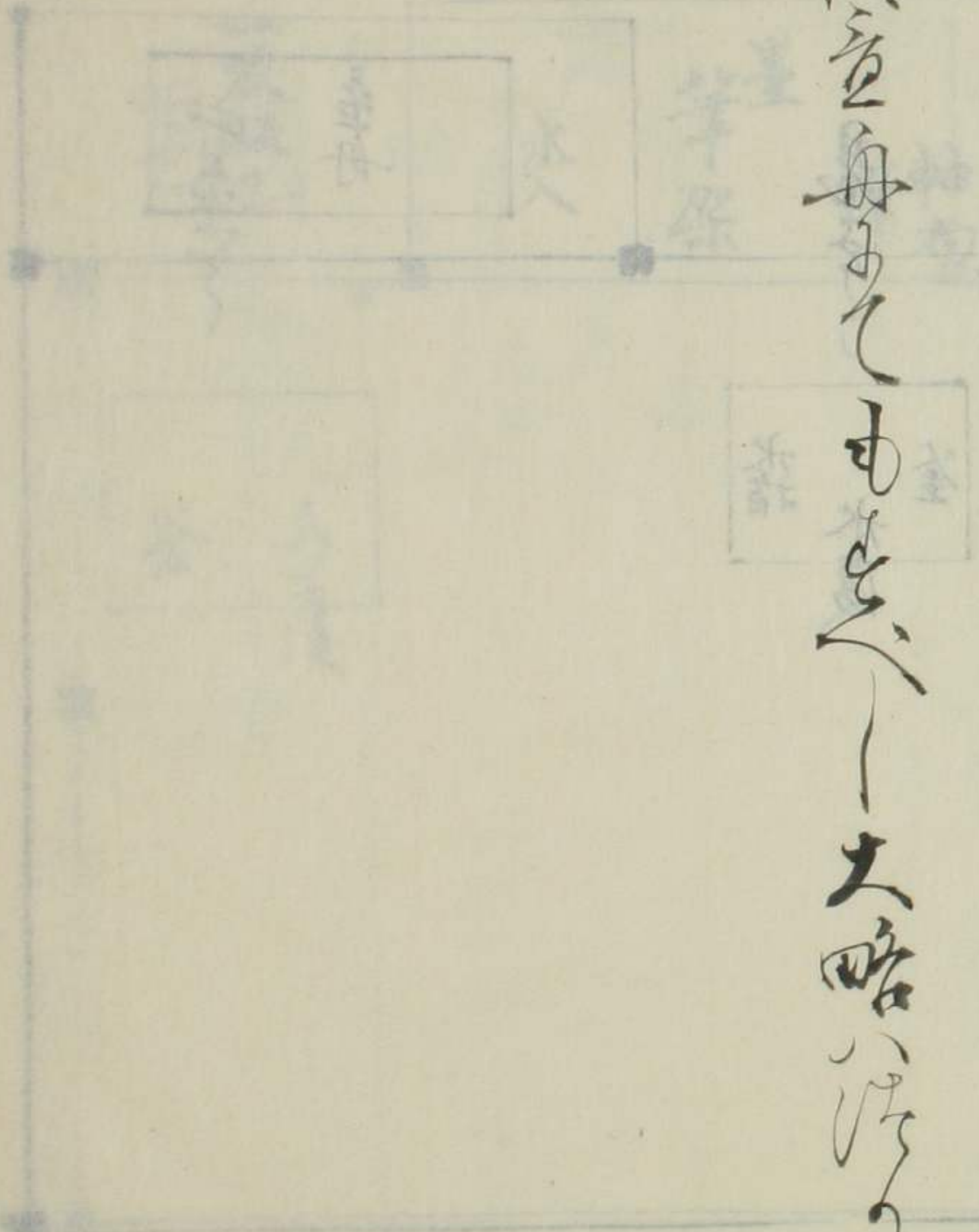
繪元

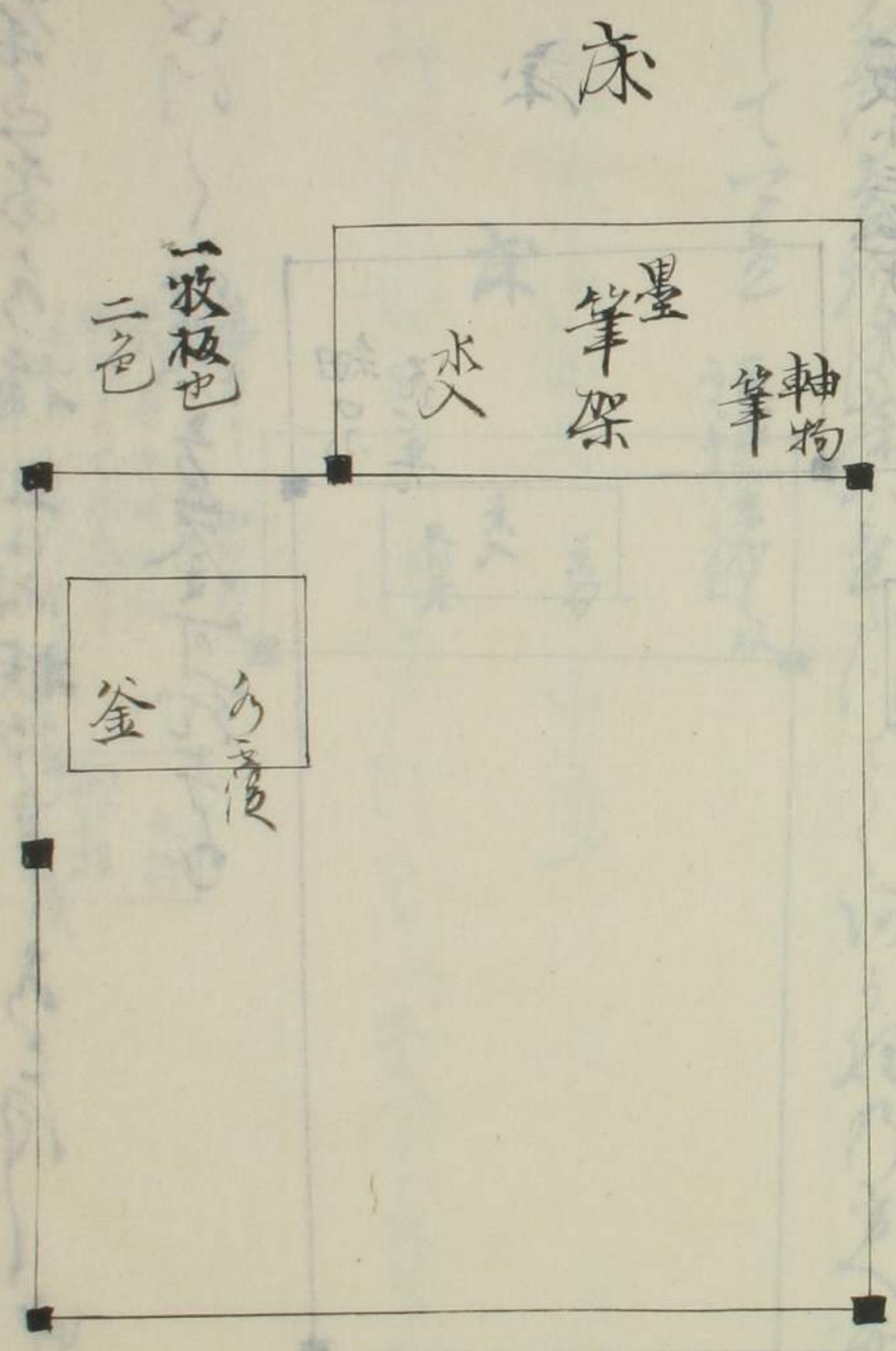
其子ナリ
弟抄に盆中ナリ
右にハハセテ
出〜〜

水指
柄指
金
水霞

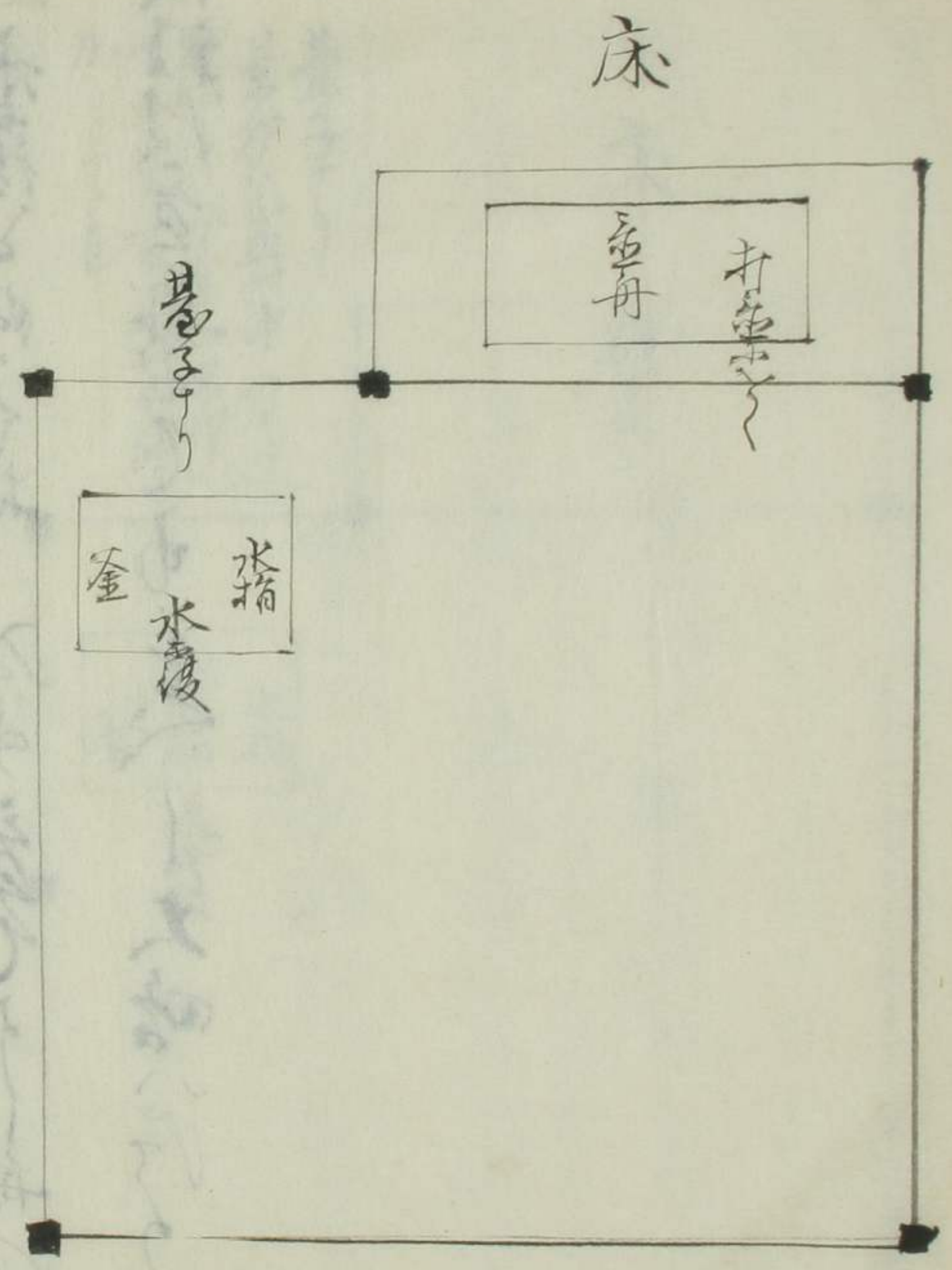


如新三年其子ハ色付カ柄抄ナ有ルナリト云
乃乃水霞とゆ〜カ今多ク方ナリ〜舟ハ
其度程ハ色毎ナリ〜大略ハ



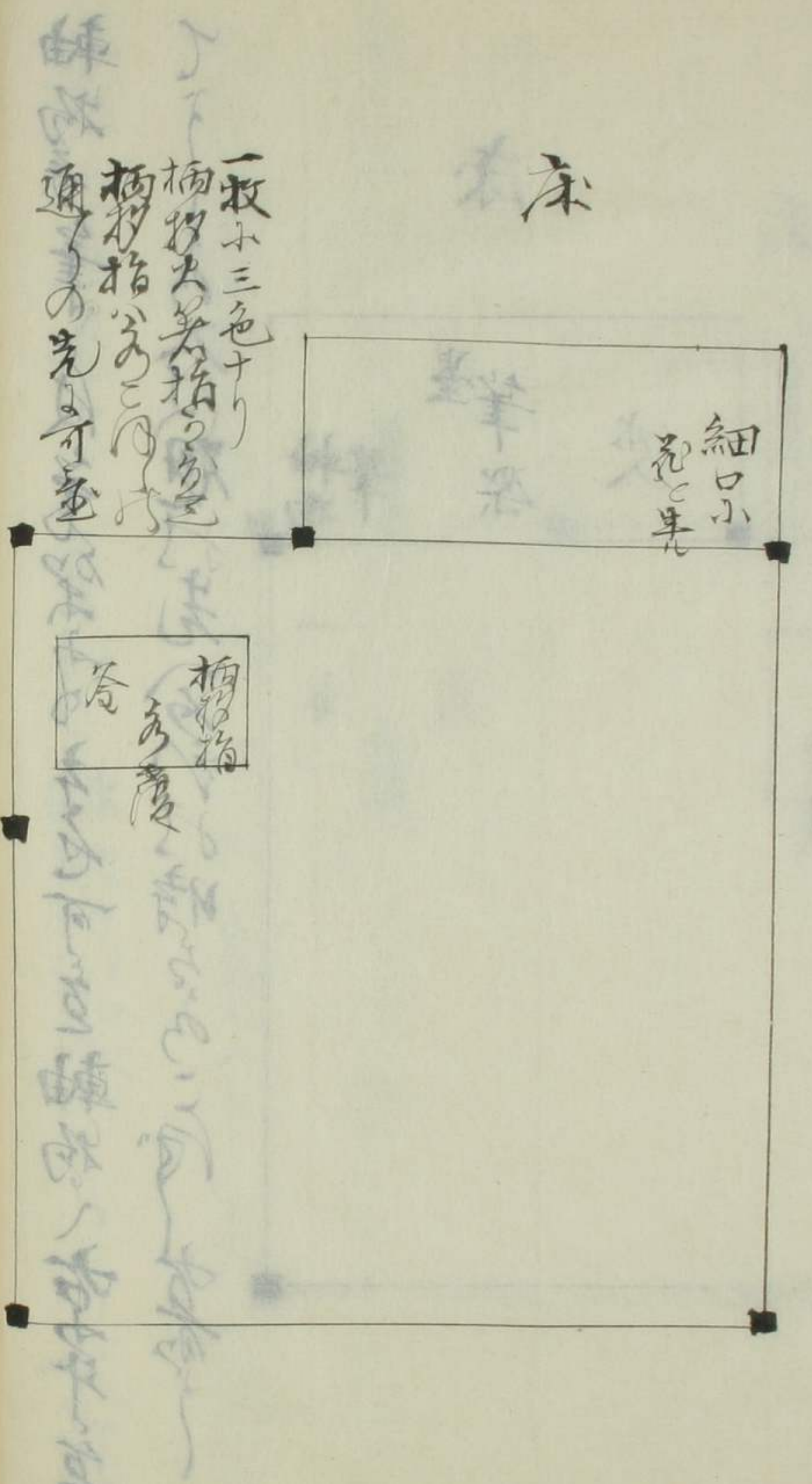


軸物筆架と及筆架中の水色可立軸物入右身直
 てより入るは視れ先(右)の時はありて河が流る



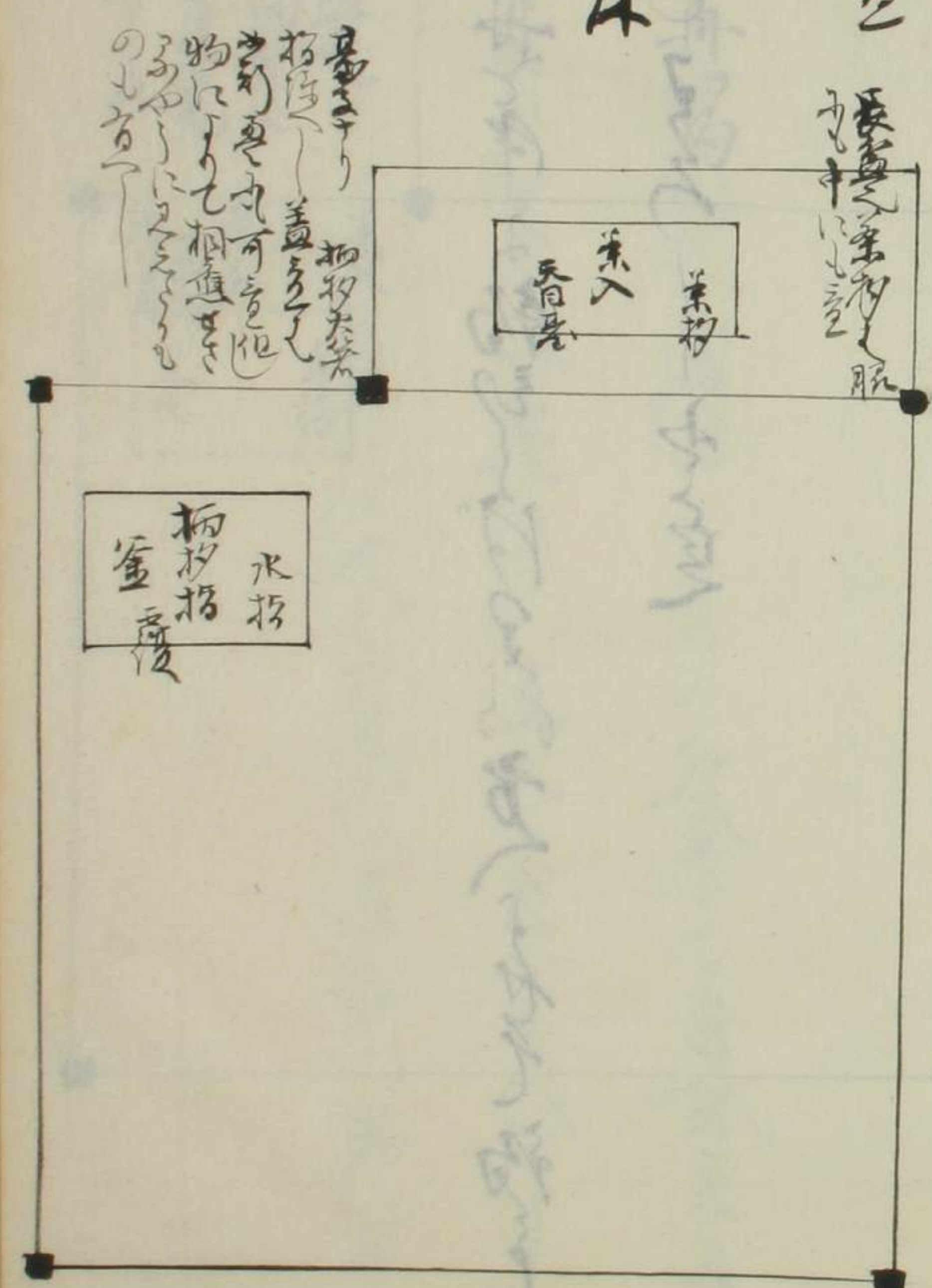
所帯の多き指し厨柄抄のしるしを中へ
て四つくみれ方と可成り

本



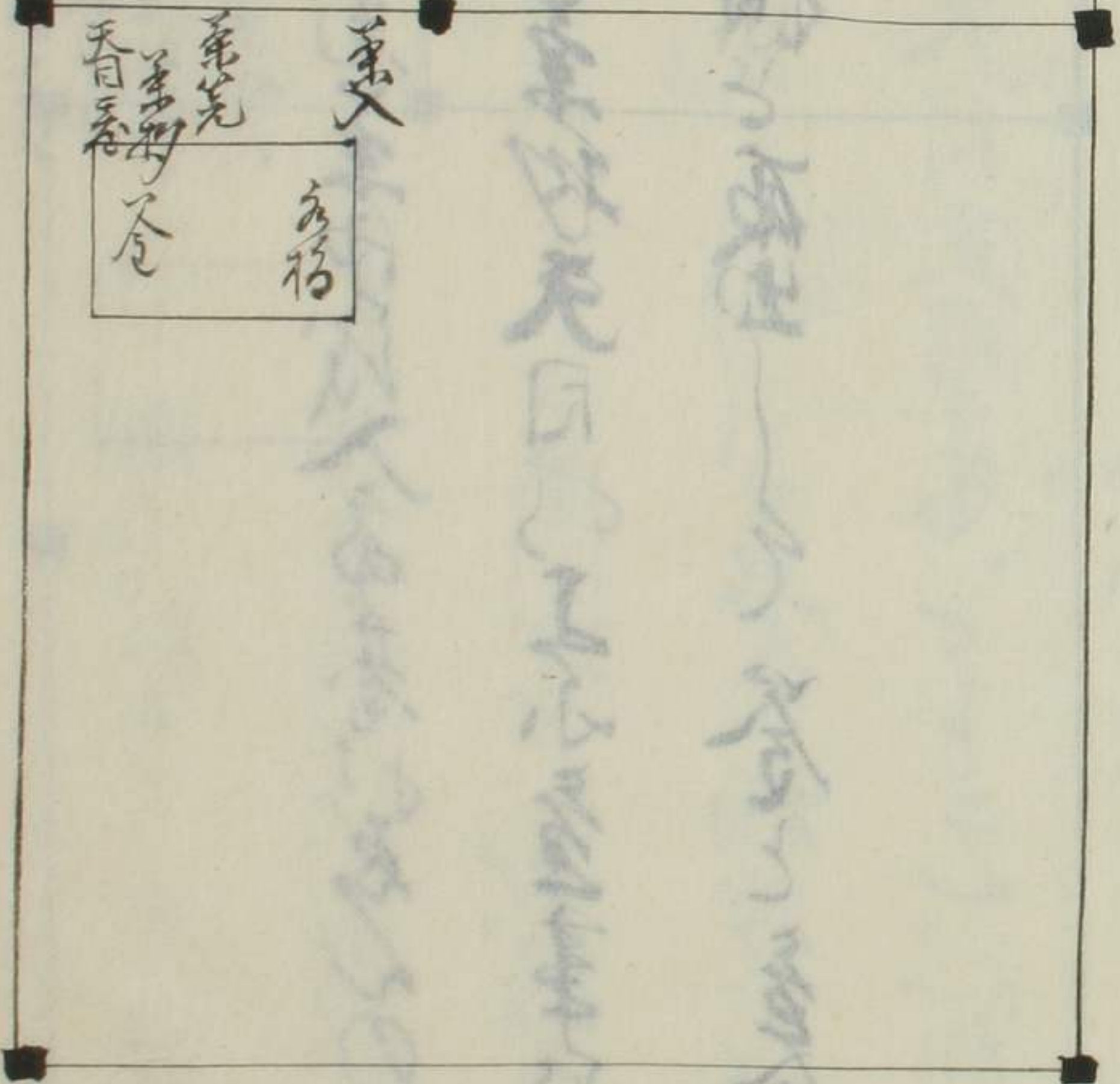
葉をまき時く盆は西に桂の通へおろして可立
盆のまきは茶小をいへく河うねりまへ西とふ
して下を

本

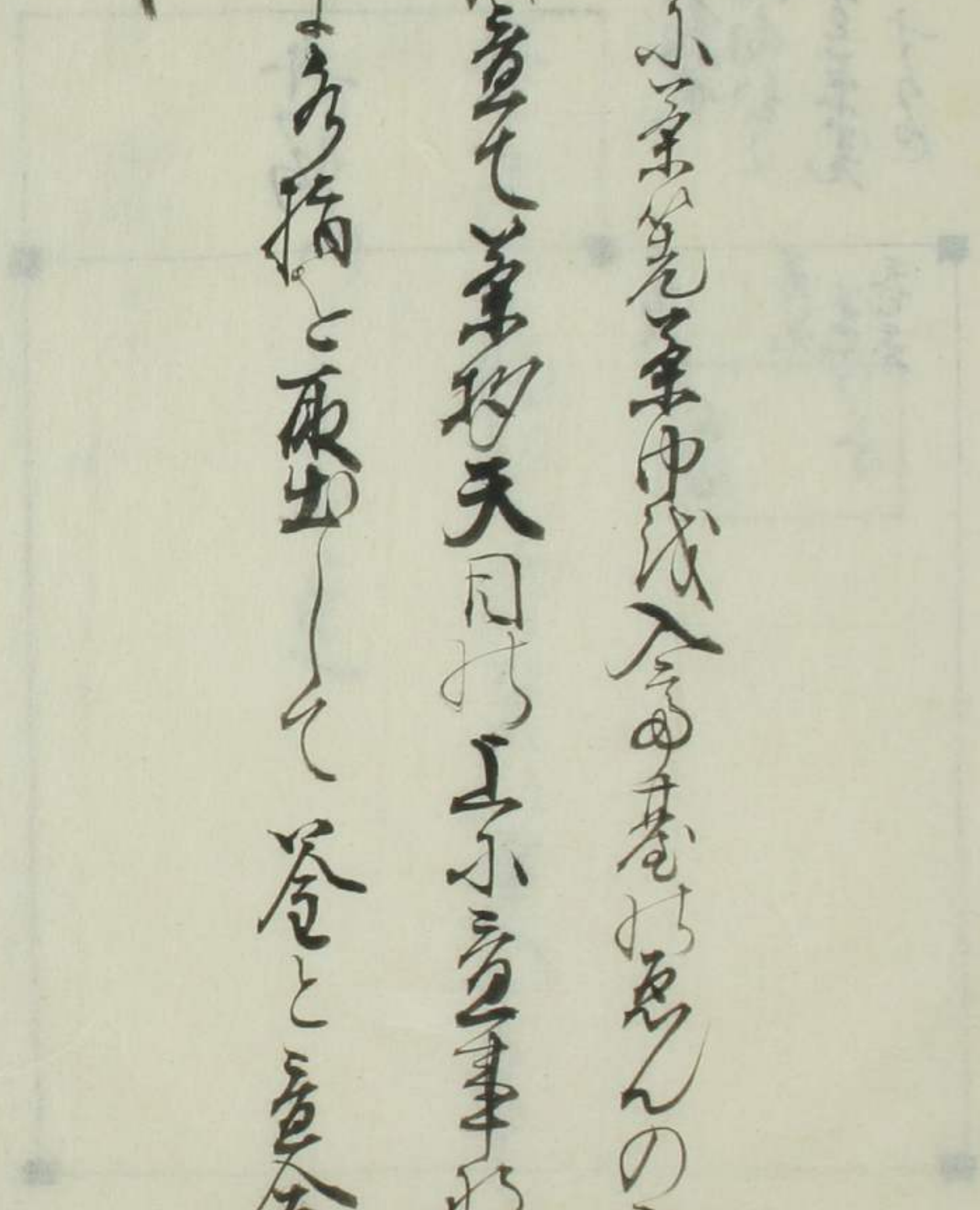


可移之舟中子船也
 舟中子船也
 舟中子船也

其童子也
 其童子也
 其童子也



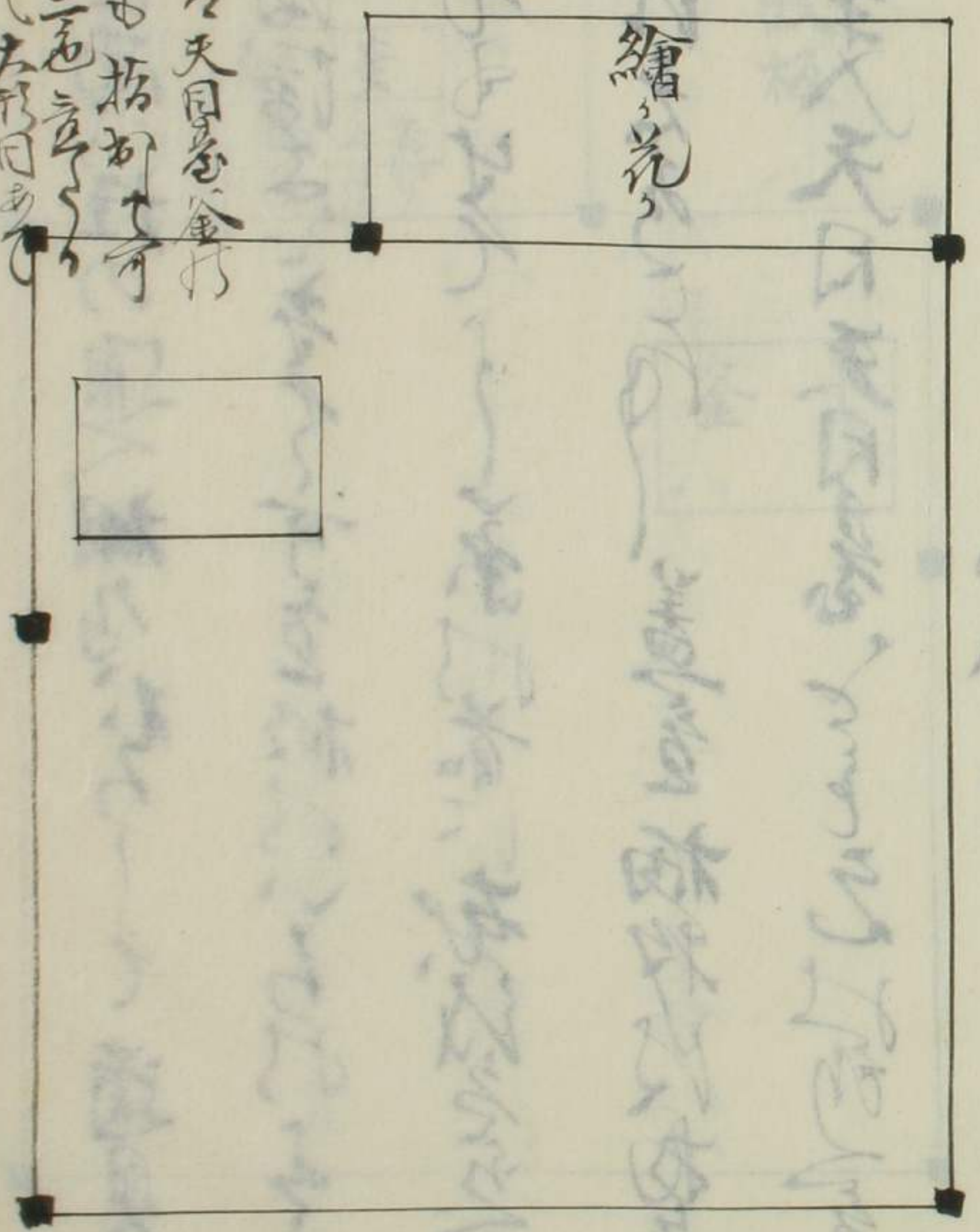
天目付中小葉巻葉中成入金の巻は巻の巻は方
 小葉物成るて葉物天目付小葉巻葉物
 葉物巻より指と取出一つ巻と巻は葉巻
 小葉



天目付の巻は方

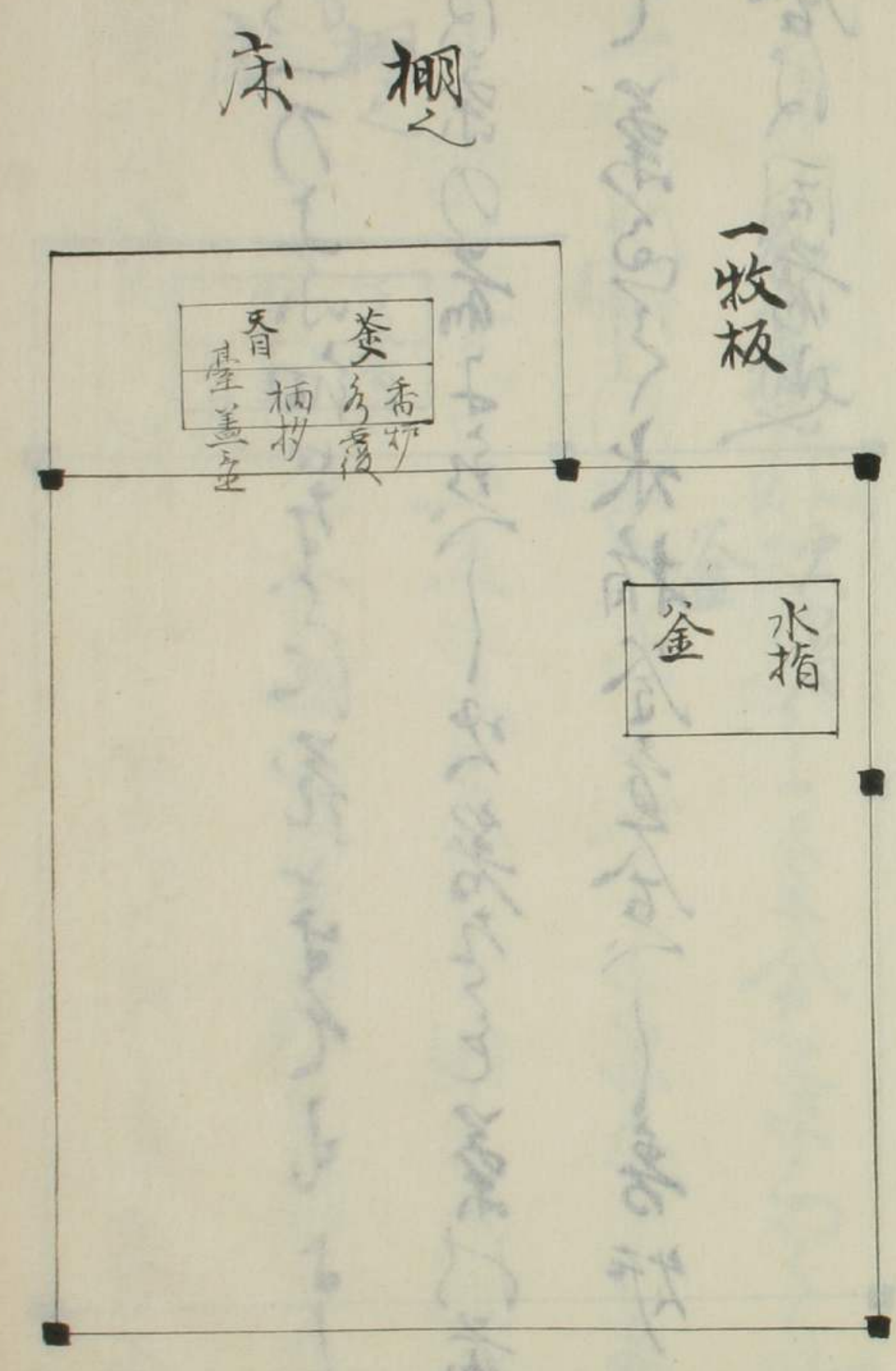
床

繪花

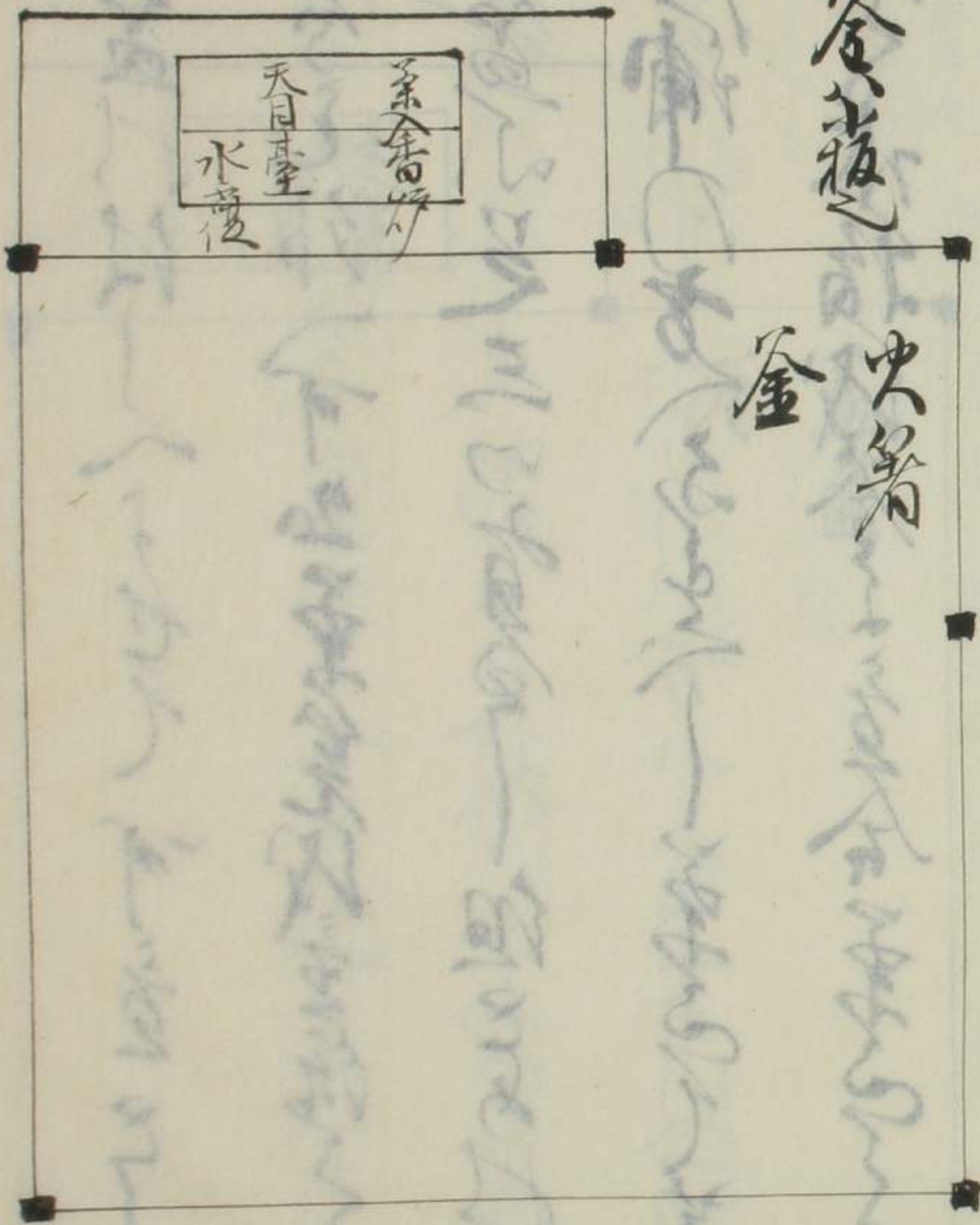


一枚板也
 天目付の巻は方
 通るより指と取出一つ巻と巻は葉巻
 天目付の巻は方
 天目付の巻は方

室の立の時正西の柱の通へ棚をたつてと道具を
 取あて物守の障子ときく可き板をいられとす
 細いもの布も先へて茶の間に敷きかへし
 毎々そのいふありては蓋を柘抄の物置
 へ置きなれば天日天日巻くこと之は好し
 細い板を二枚置きて香の二枚置きて一のよ
 棚の香炉斗を中央に可き也



棚
之
床



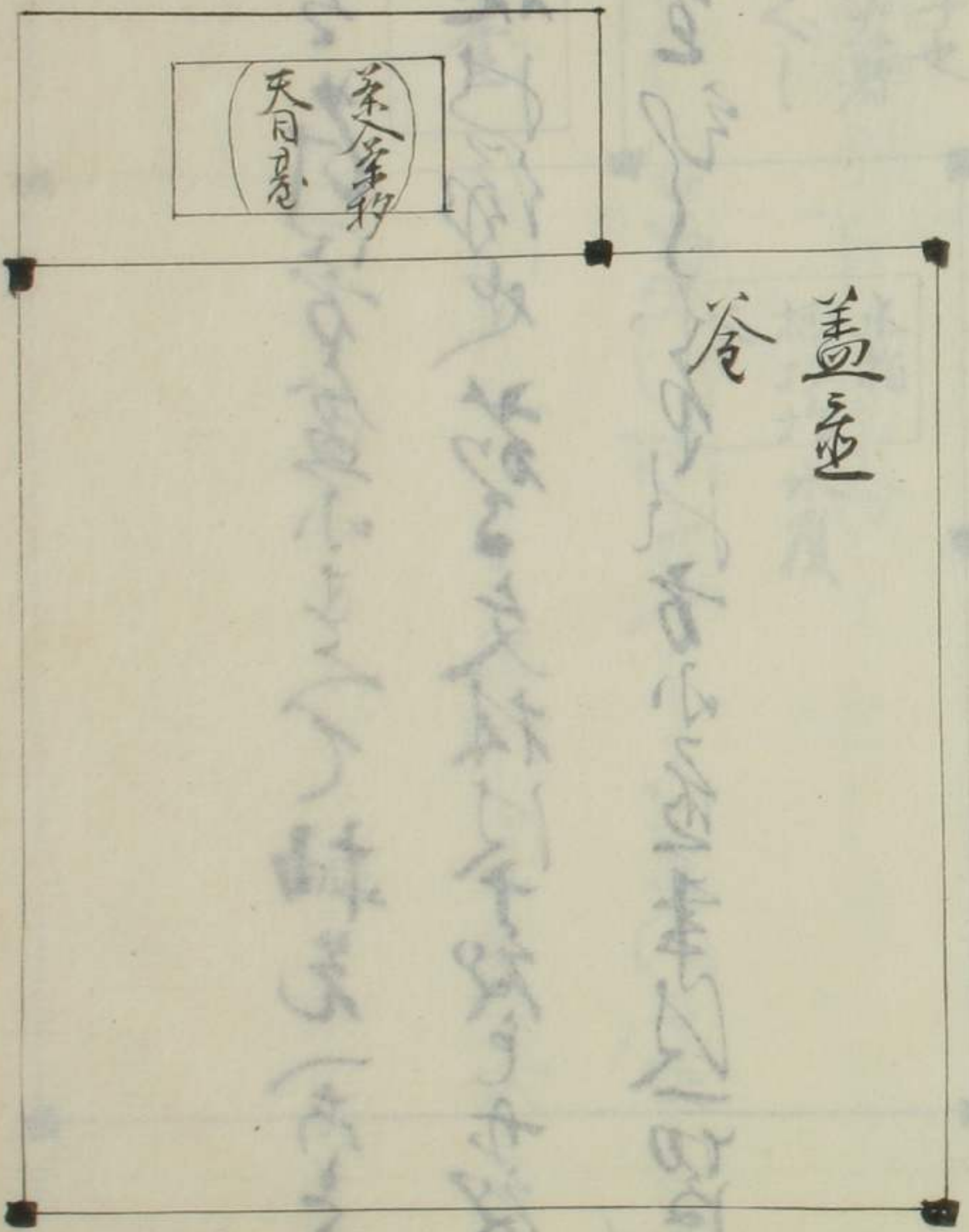
茶室

中室
茶室

棚は一乃上小細口茶室の花とすてもよ
 布は糸の筋子とすく一火箸をも茶室前子
 糸は茶室とすく水指茶室金一音灯は
 茶室は同前也

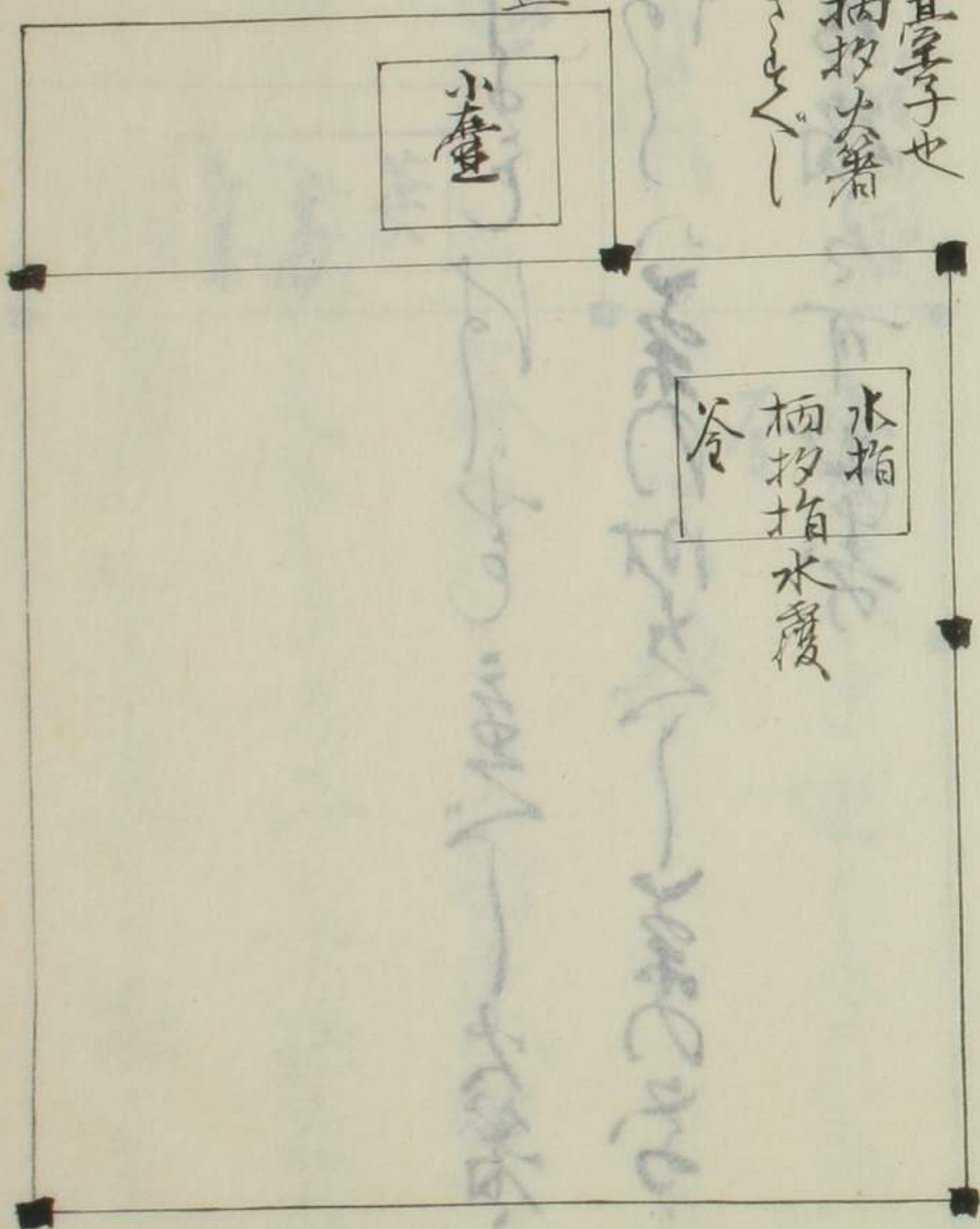
茶抄は蓋には一ふせし可なり
高五寸五分外一可出茶葉は蓋に
一茶葉不足三寸有る一節
ありて蓋の方へ一茶葉は蓋
に一茶葉は蓋に一茶葉は蓋
に一茶葉は蓋に一茶葉は蓋

茶
蓋

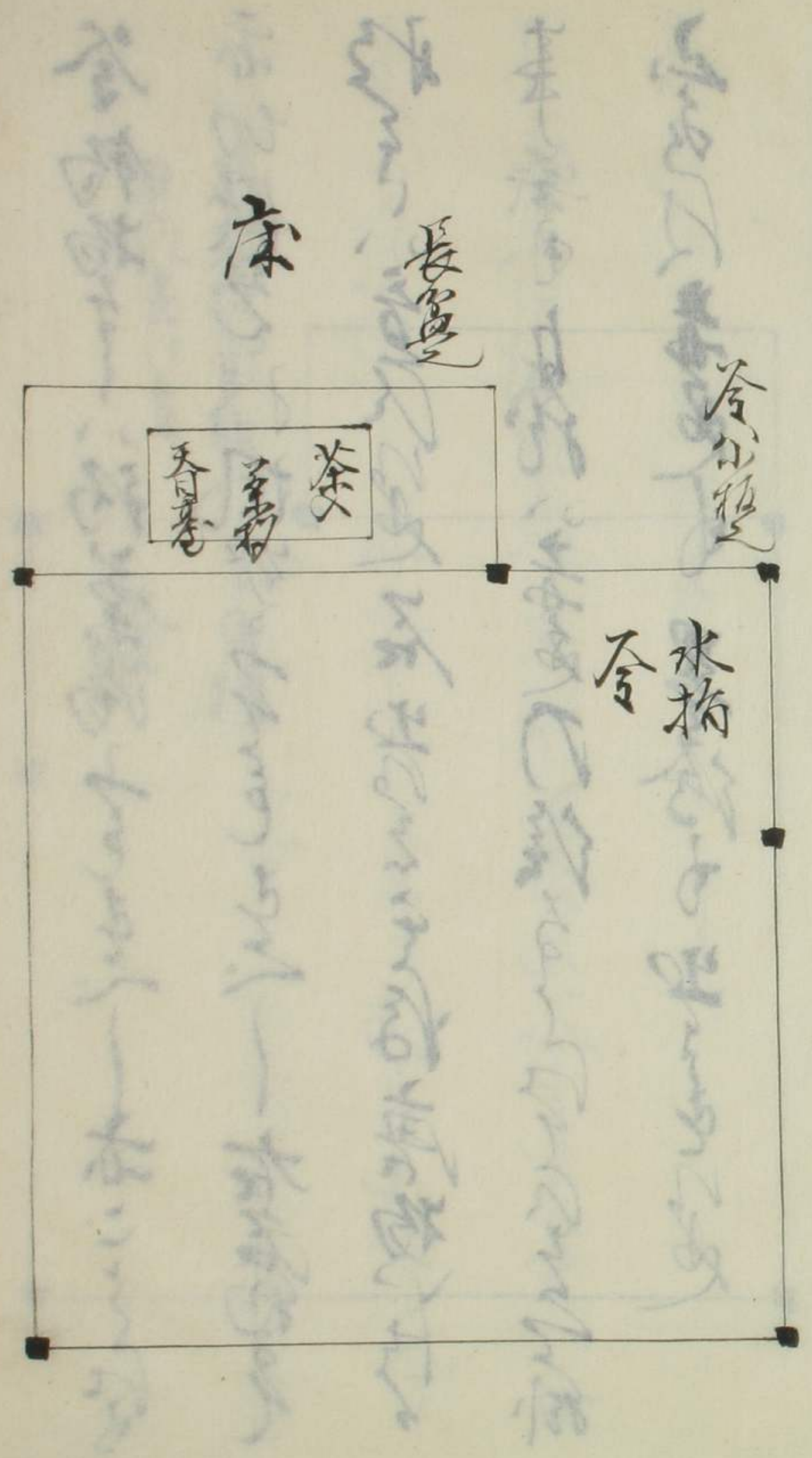


小簞の時と竹筥方盒よりして軸先(あき)をきく
 音もあき親に海也。若し文林に十段もあき
 軸先(あき)可なり。

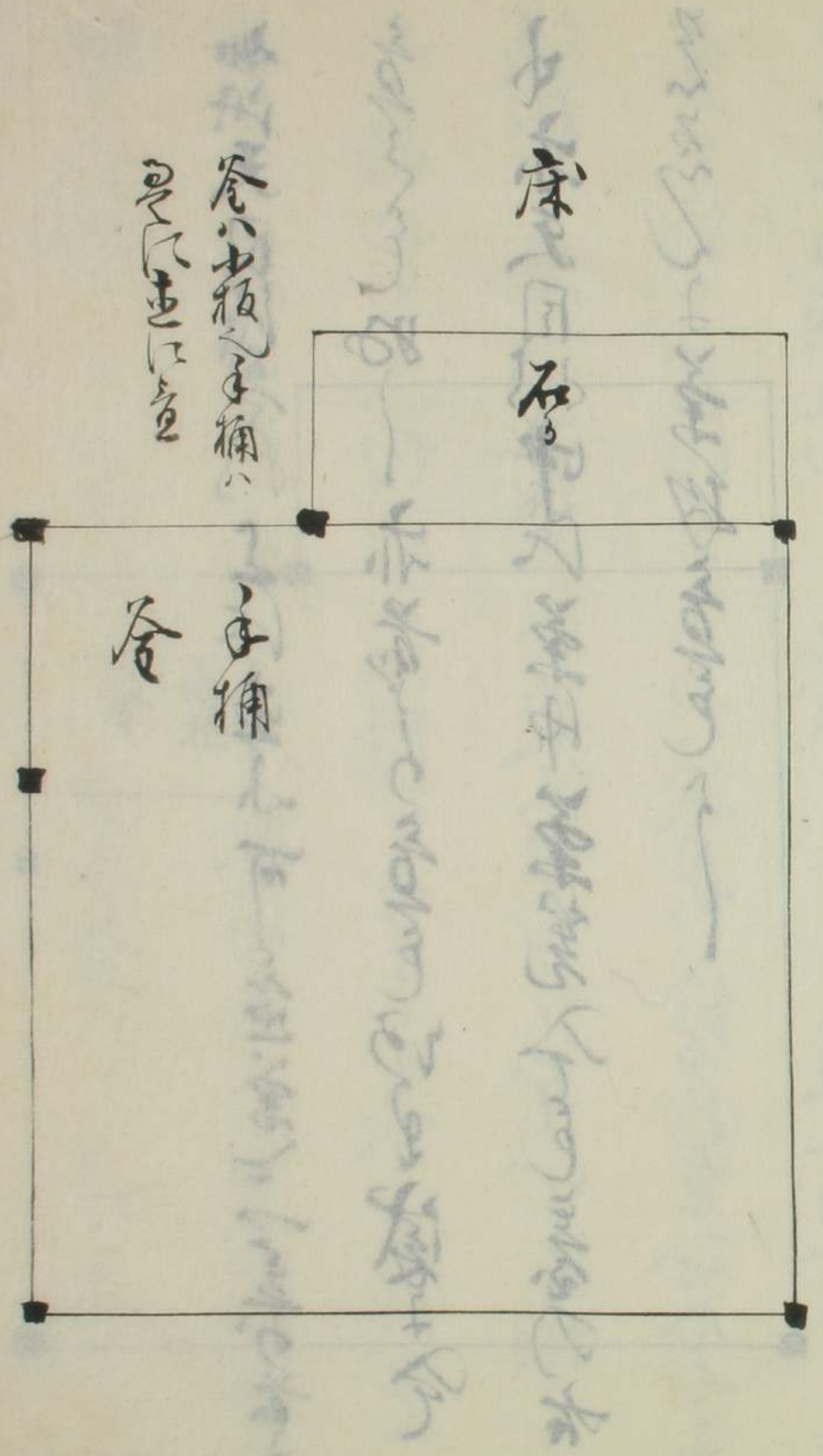
床

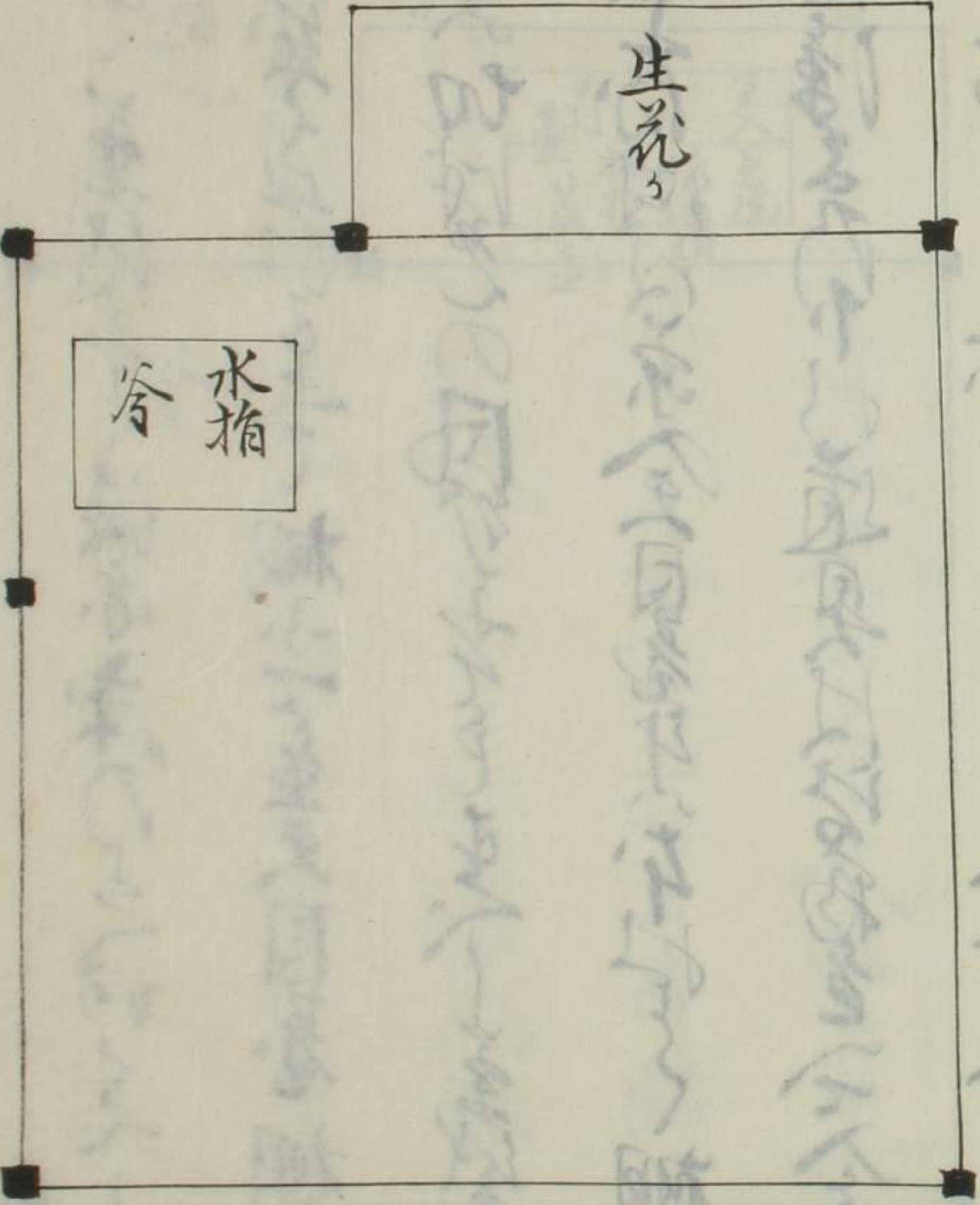


茶の中へは...
 ...茶の...
 ...茶の...
 ...茶の...



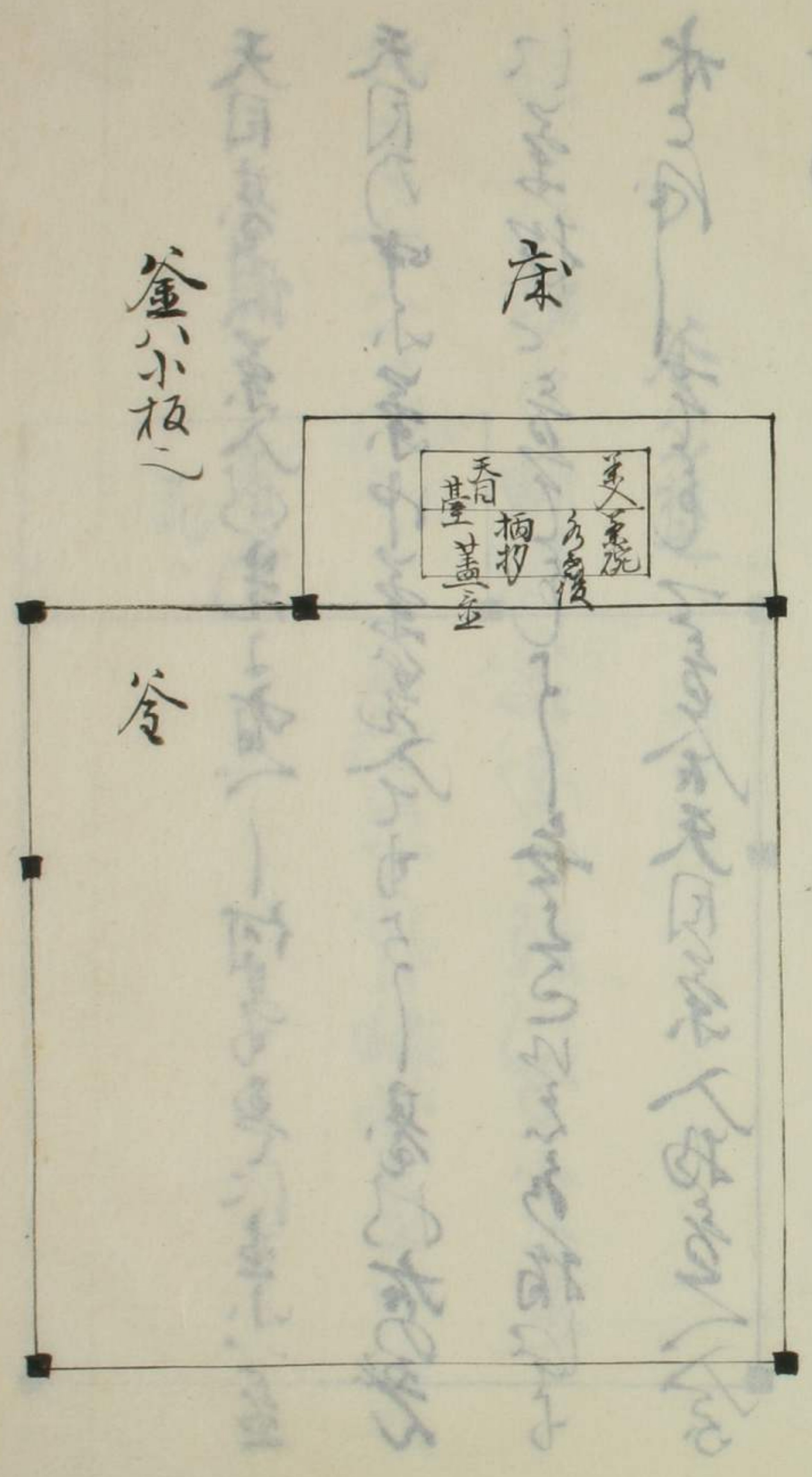
谷釣物をくく釣る湯をさるくく亦くく
 亦切流先が風炉のくくさるくく右名物
 形くく音及建石出くく存唐物の
 事無用自然の毒色の候くくくくく
 山ありくく毒色くく墨跡も出くくく



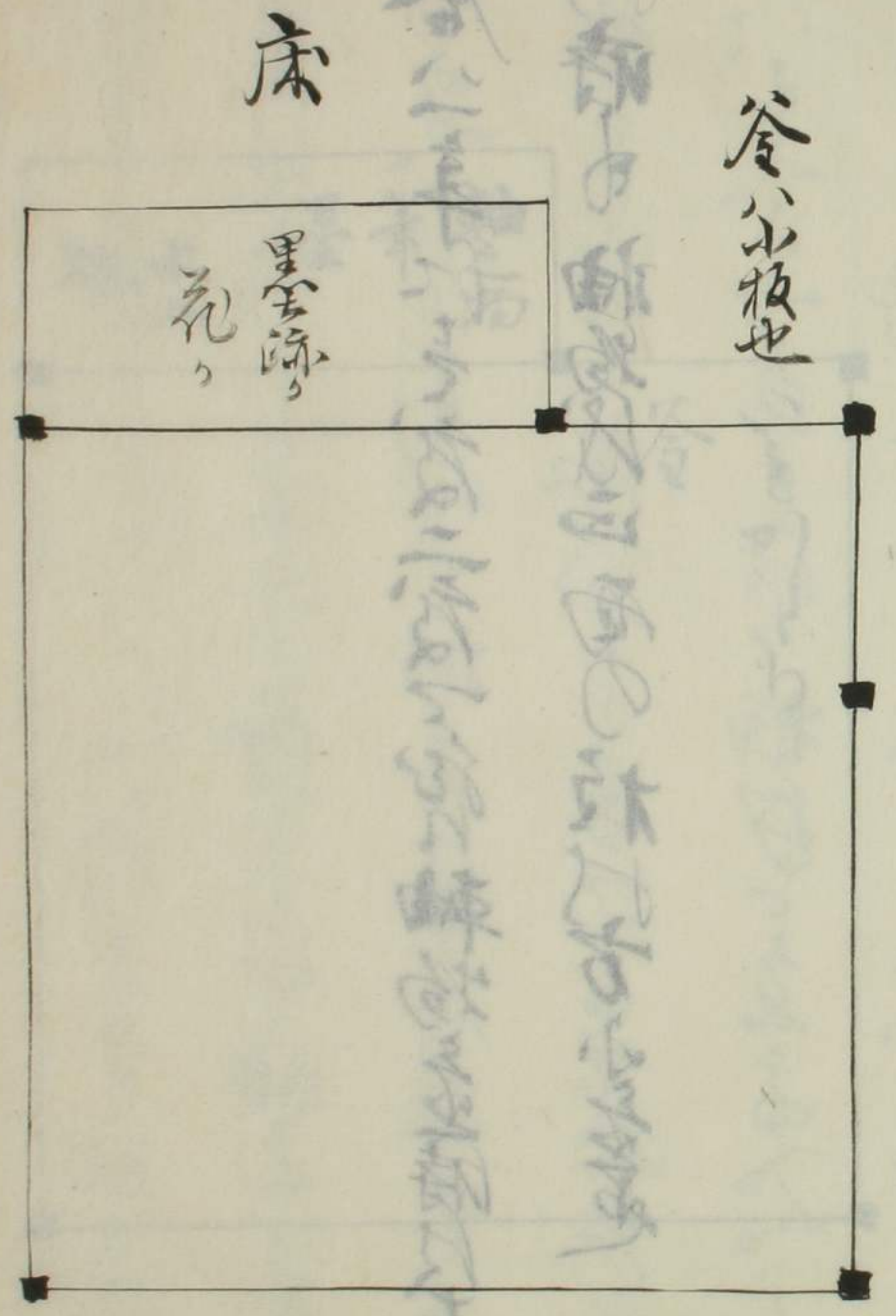


如出天國
 此亦天國中
 此亦天國中
 此亦天國中
 此亦天國中

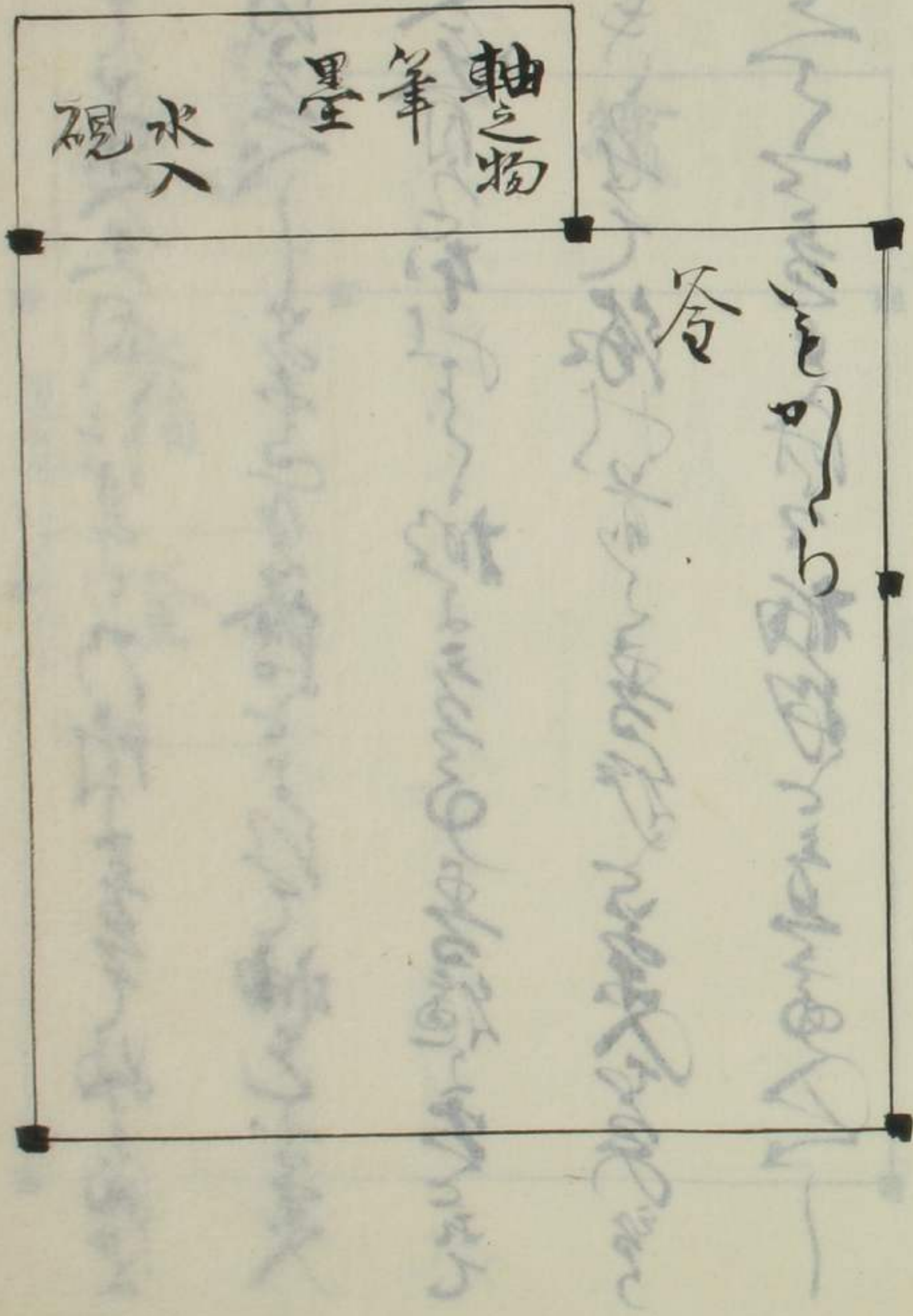
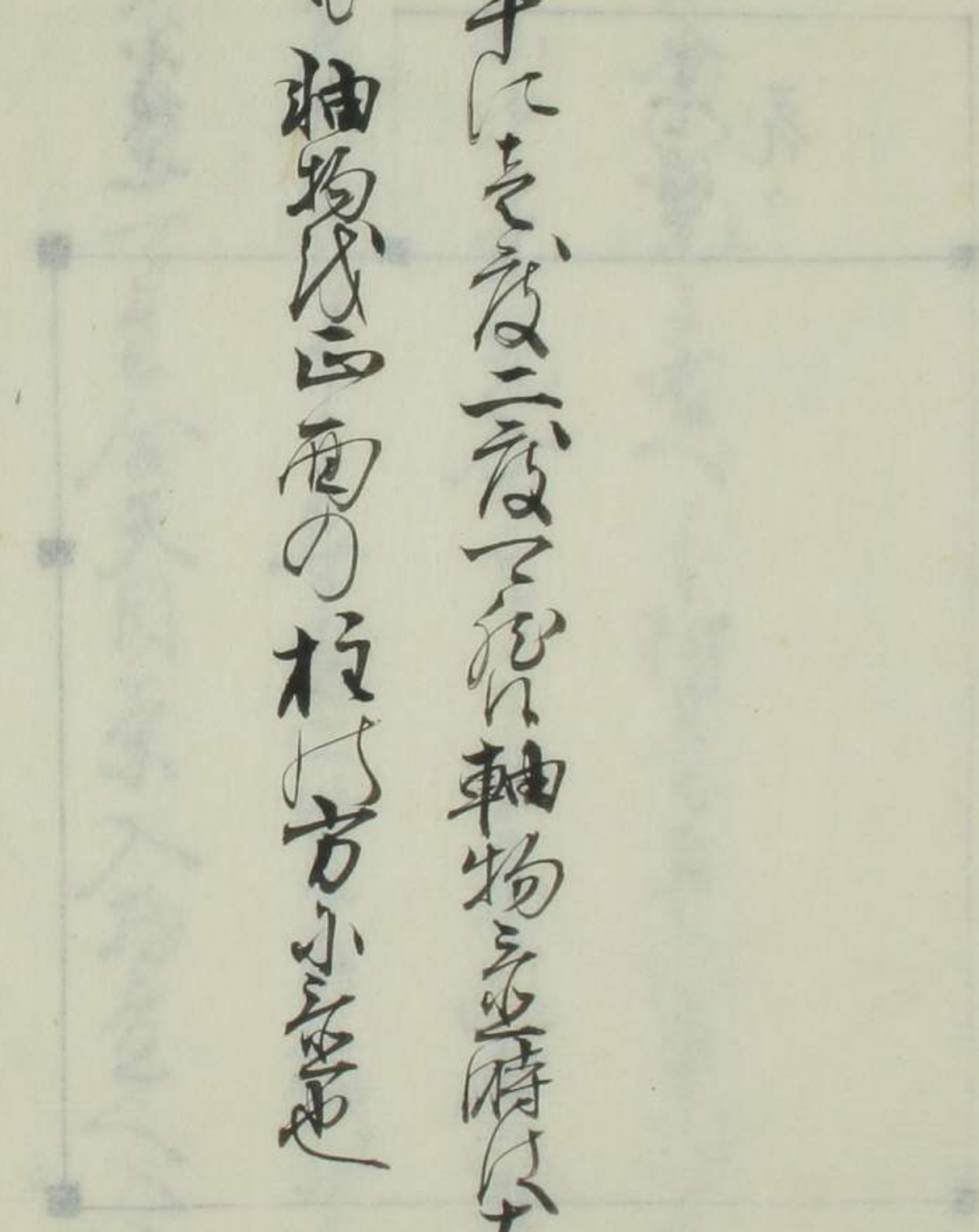
棚をわらわらして葉茂きく後床のよけく
 糸今能は床を造りて棚ふと蓋又目巻棚寺
 意釣内わらわ切はの目がやともまへ
 後棚と床の上の付の糸今目巻牙ふたへく棚
 意く物と海障子の下の道具はは物色へ今
 ことろあ指の出へ水袋へことろ後水指の内へ
 今床の唐物もへは付の谷一程して死に



天目基は糸入物先有づ一何事も是に糸入を
 天目の中糸中糸先合てより一巻は右の先
 に糸抄と音せしより一巻は右の先
 水と糸一糸も一巻合天目糸入物先合
 たり



此書合右一年に之度二度で記し軸物を時より左
勝子持時の軸物及西角の板下方小字也

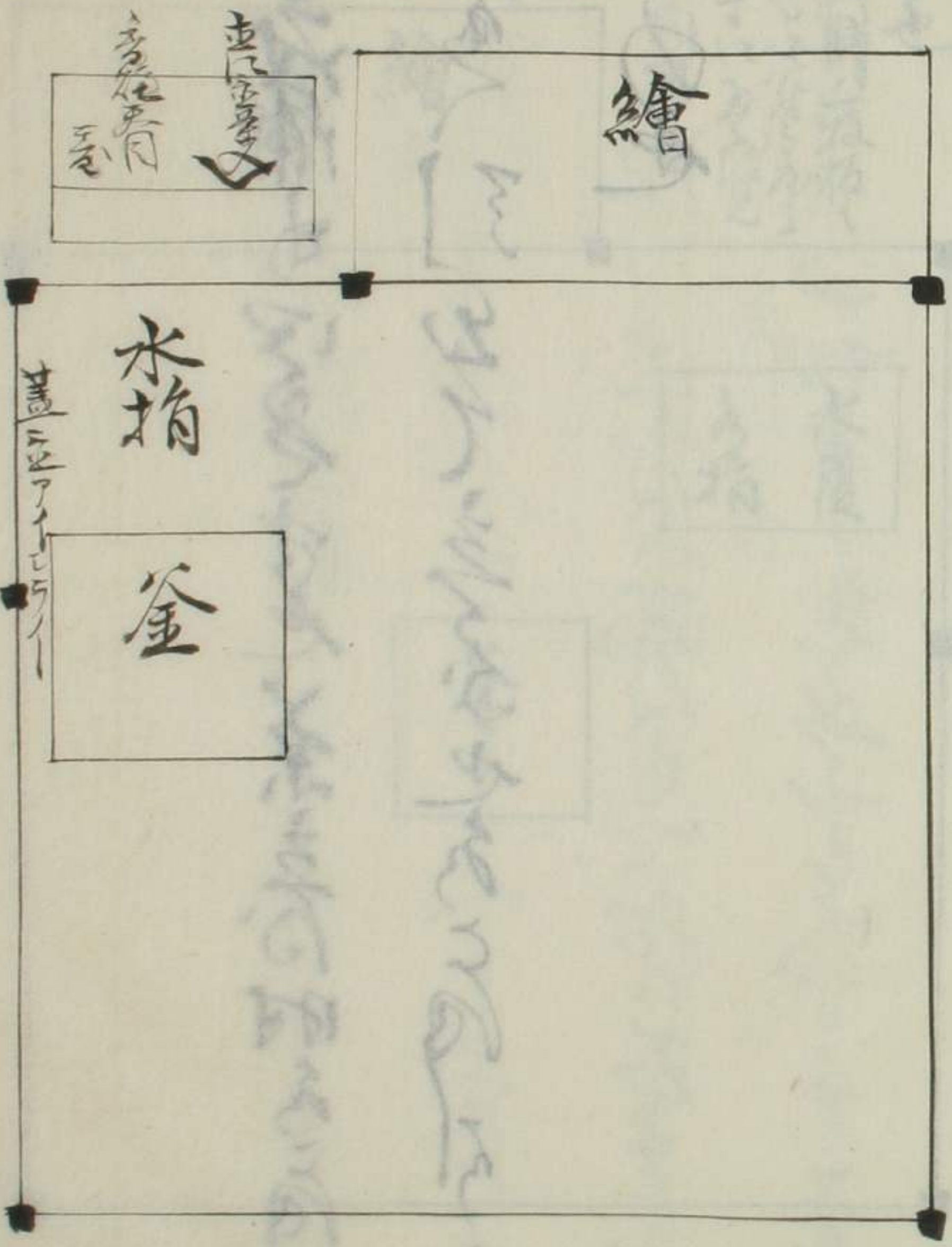


軸之物
筆
硯
水入

答

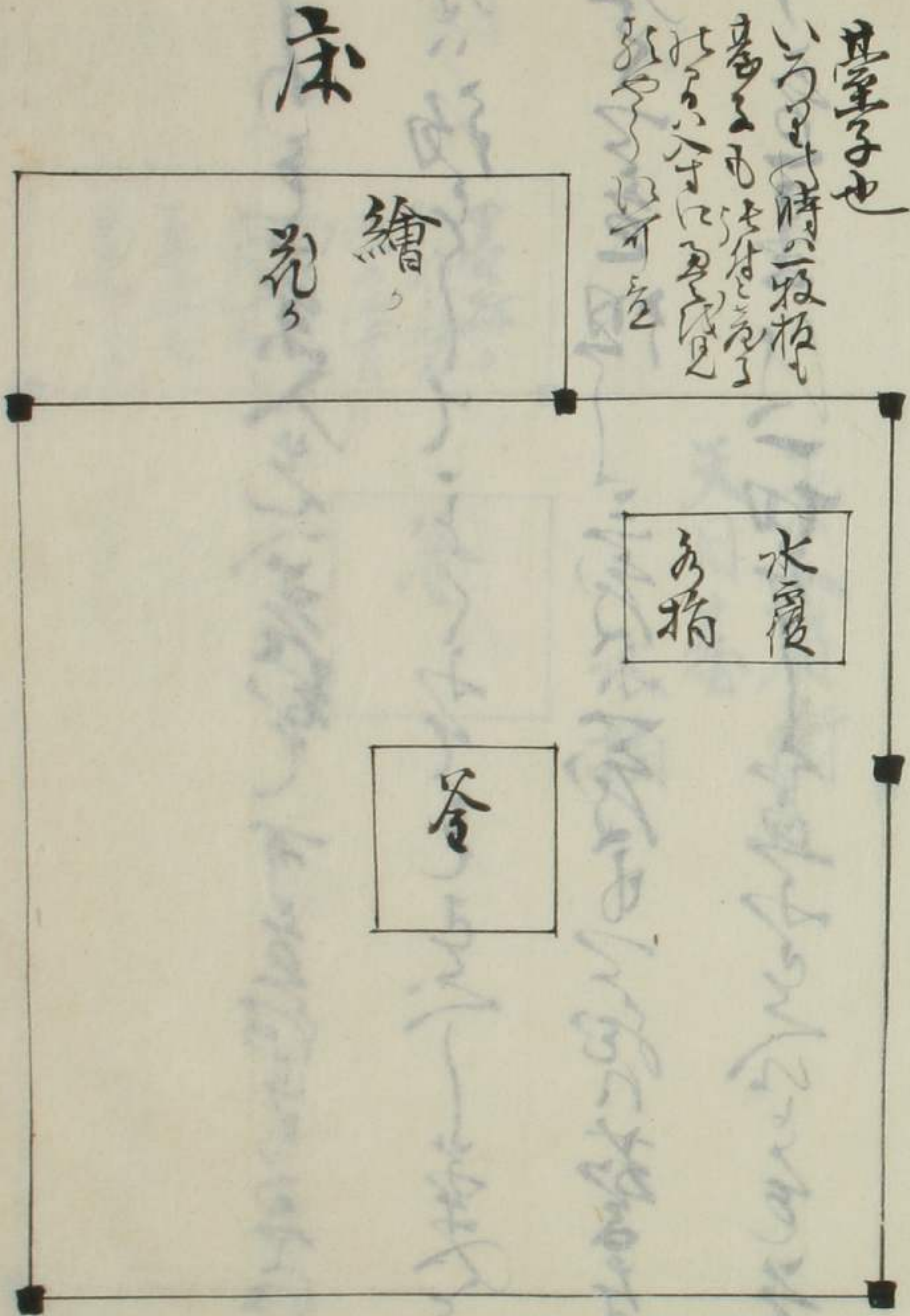
相の成るるは業を月法事乃所と云ふは好の御
 ともく業は立んば業は結ぶと云はて抽て業又
 して業を業と云ふは好の御と云ふは好の御と云
 考は客の女にせし縁は好の御と云ふは好の御
 考は客の女にせし縁は好の御と云ふは好の御
 又は業を好の御と云ふは好の御と云ふは好の御
 の内へは好の御と云ふは好の御と云ふは好の御

出入床



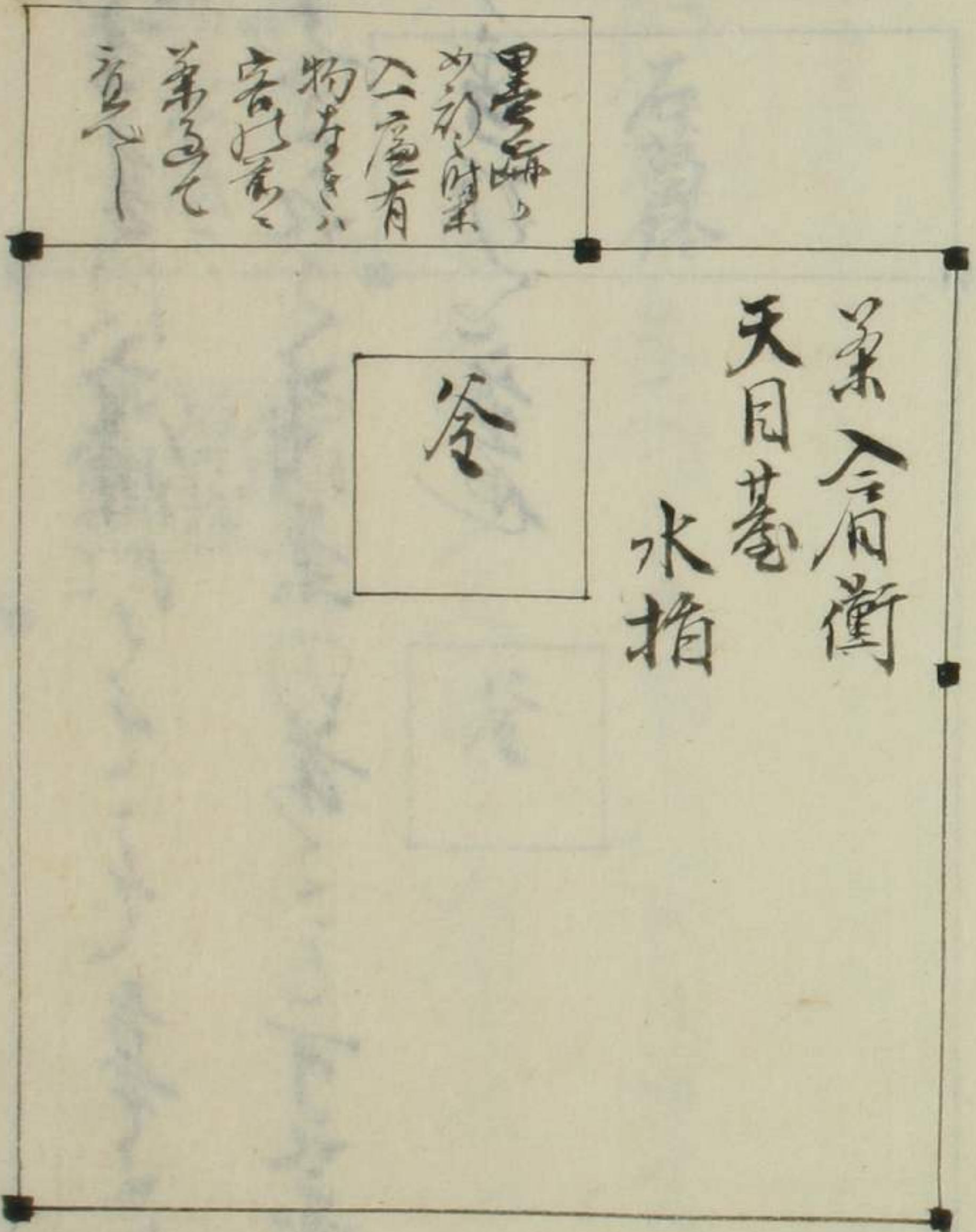
田舎裏の竹園の
 土の質がよいから
 竹がよく育つ
 少くとも

(Faint bleed-through text from the reverse side)

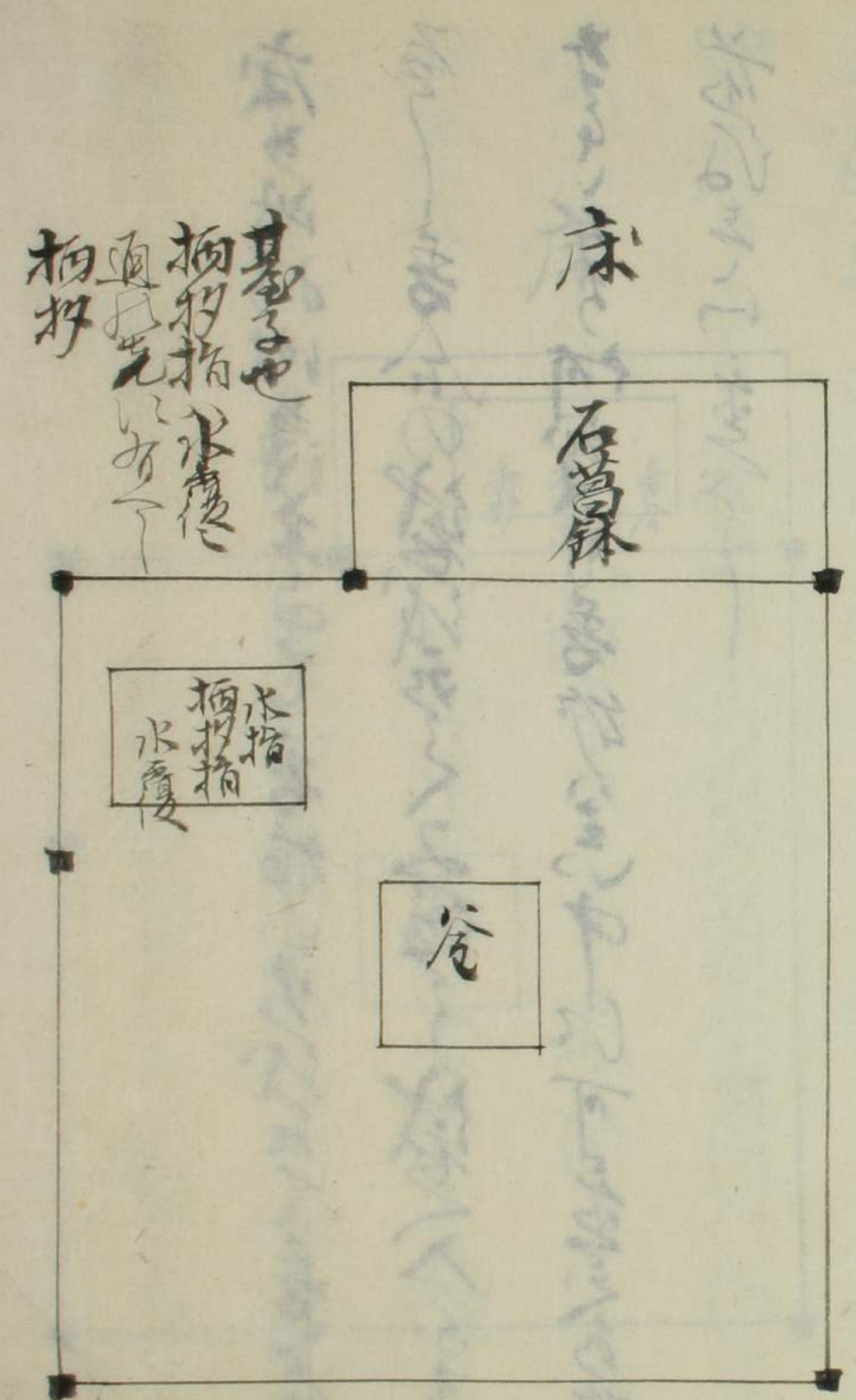


(Faint bleed-through text from the reverse side)

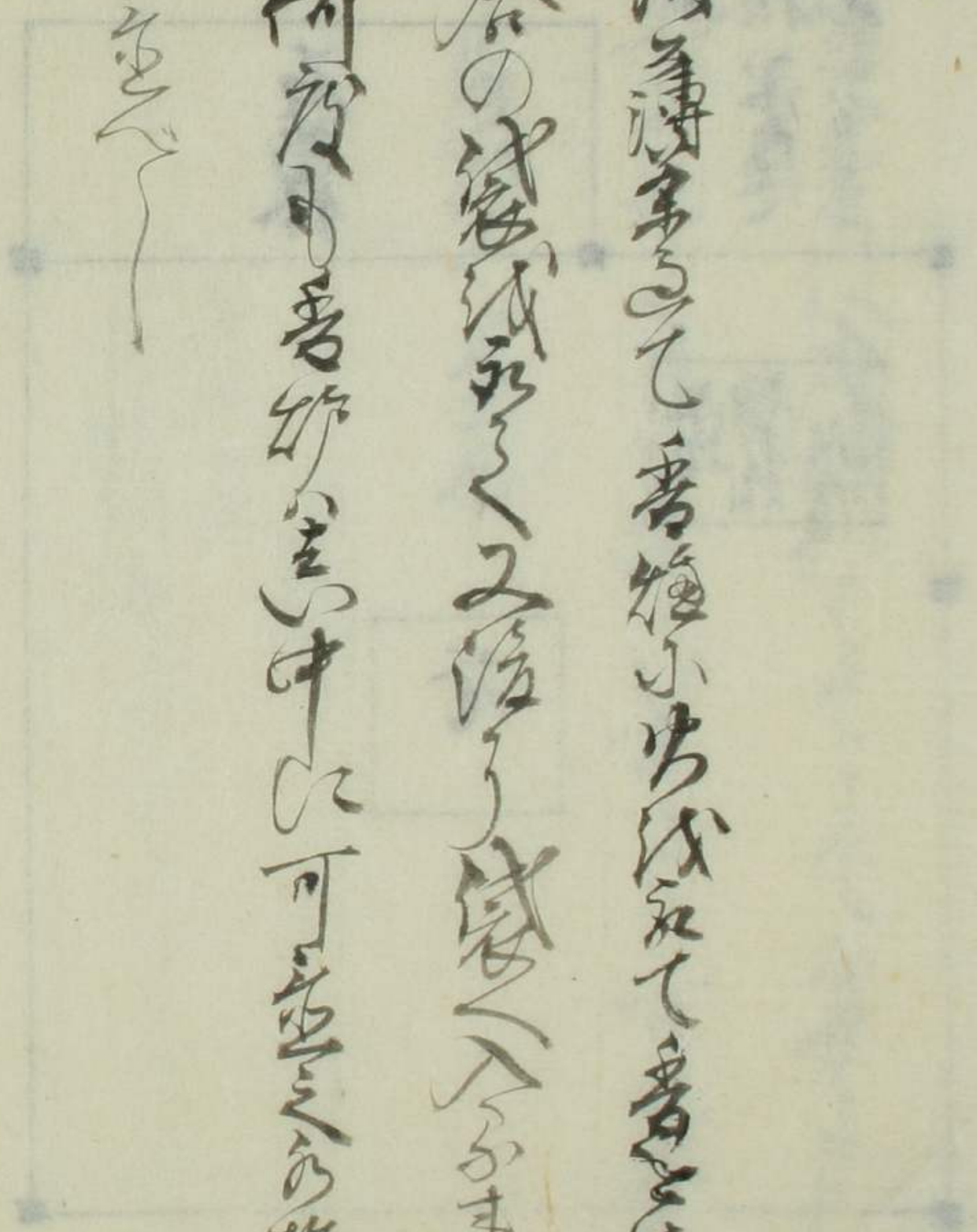
右指よりと葉入先(墨)の
 了る迄の物どしとて
 感ふ今ては但し
 一葉の
 一葉の
 一葉の
 一葉の
 一葉の
 一葉の



石高錦は事夏に産殖してして方々よし
 冬は葉がまじりぬる薄葉の葉より可成石
 葛の跡より考行と云也



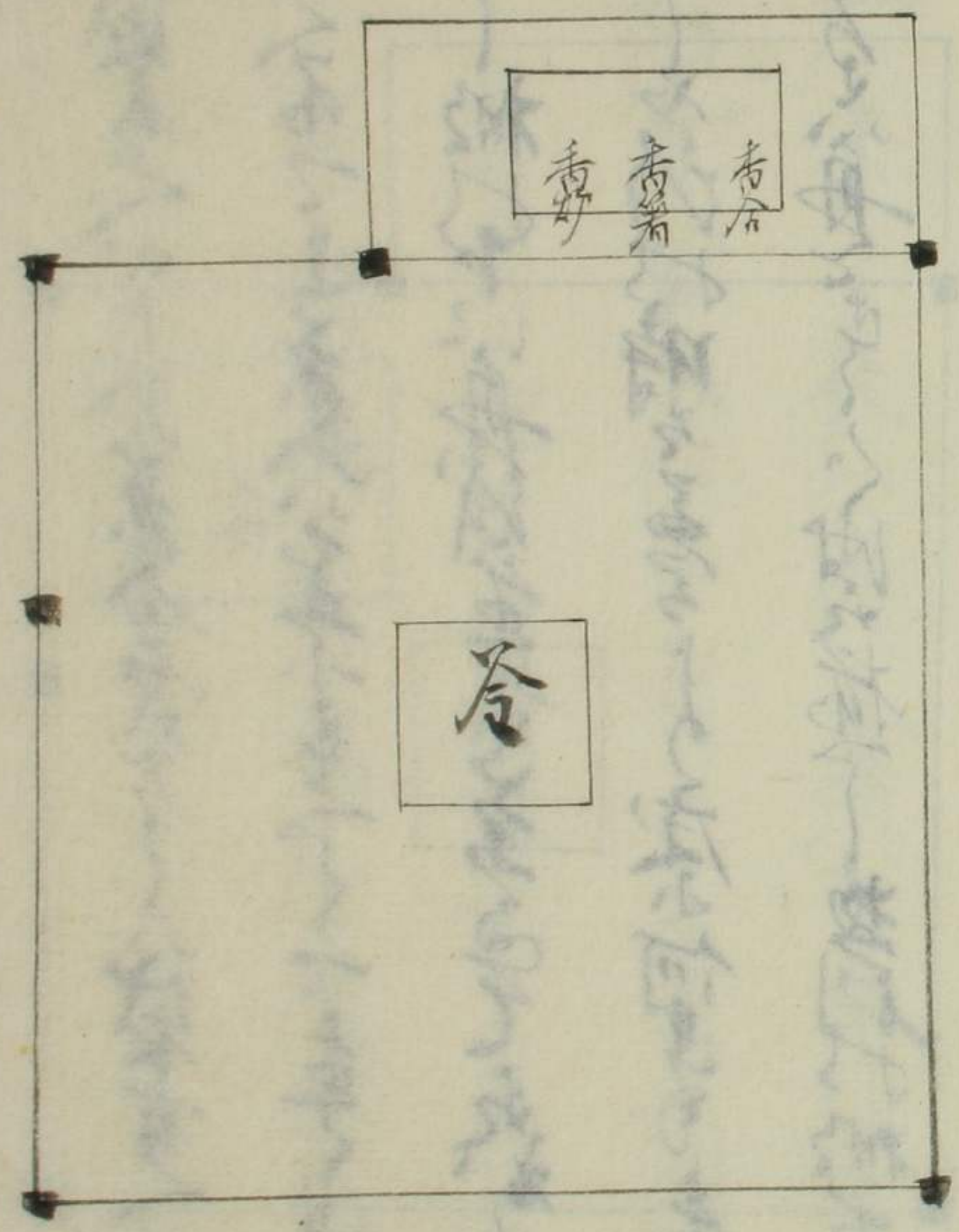
床を此れに付薄多るして音種小出成て音と成
 る一音合の成或或く又落り成入る事
 なる事あり何れも音の音中只可成之の指
 前ぬきし事なり



床

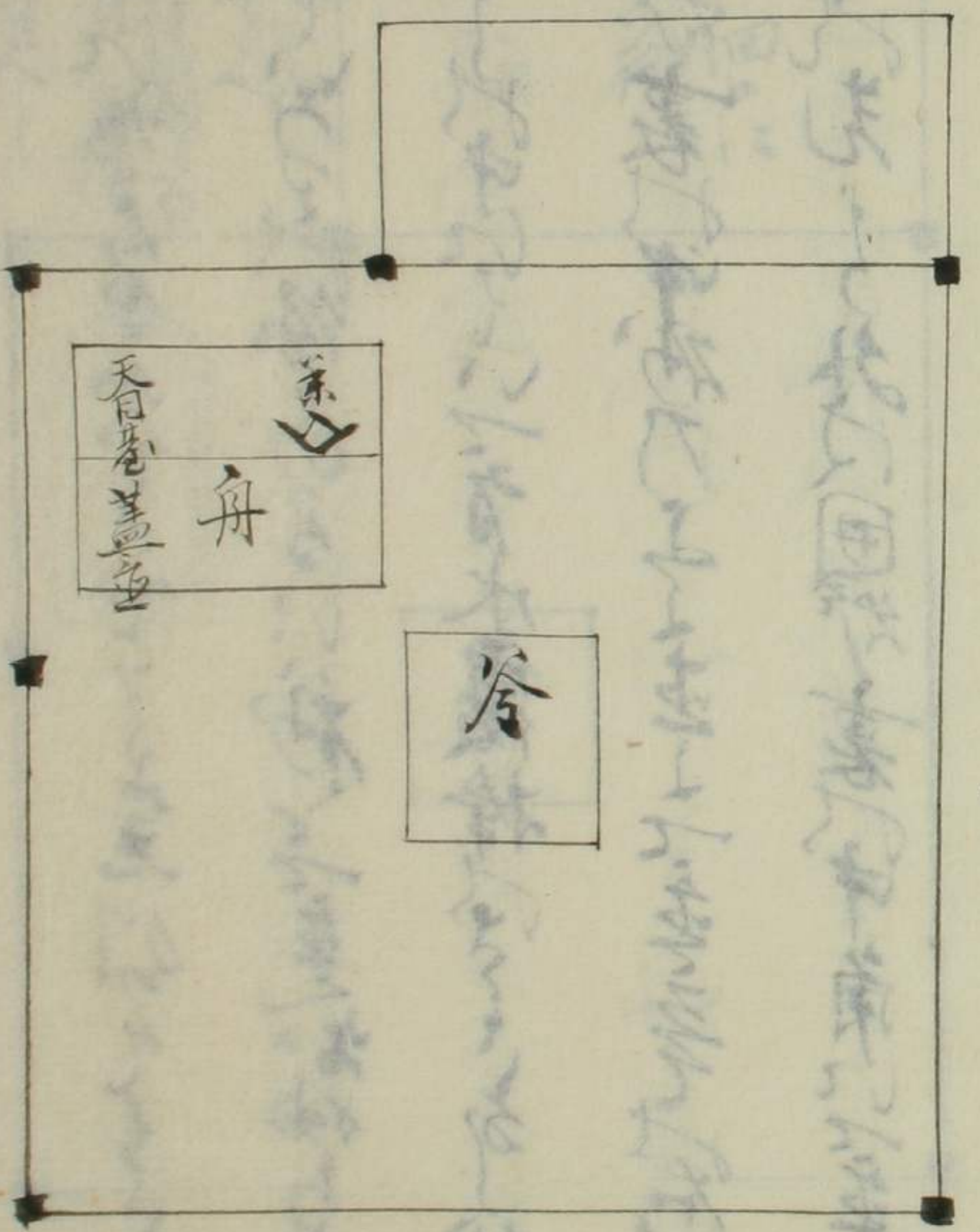
音 音 音

音



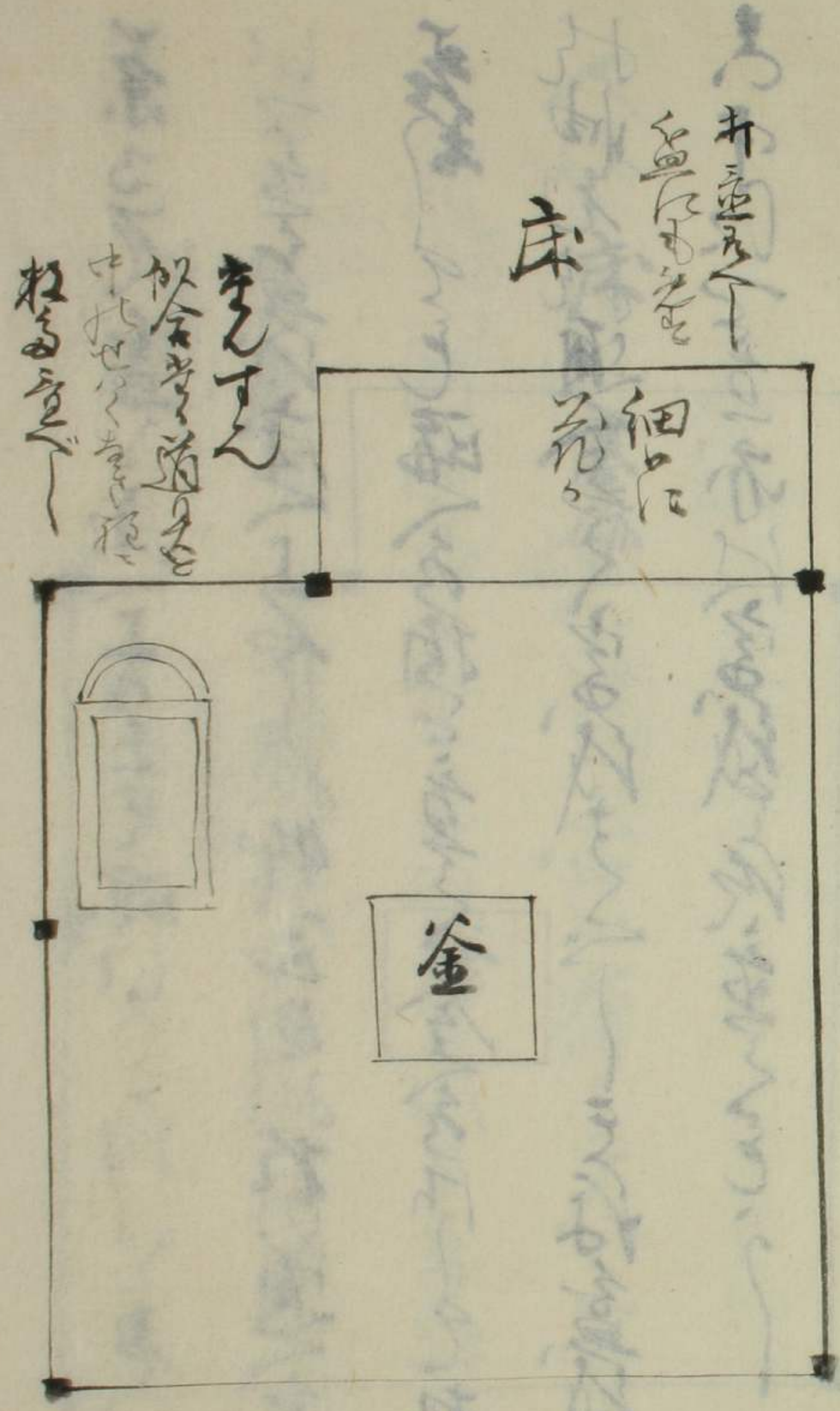
天目にも成候より、より又兼入名氣をく、成家有入、兼
 籠をく、棚入をく、兼入を籠入とく、下をく、は
 丸籠入、一、棚下は舟籠入、兼入をく、兼入をく、
 床小は兼入、一、より、時を兼入、より、床小何事の兼入
 一、より、より、舟籠入、より、舟籠入、一、棚下は
 細棚籠入、は、より、舟籠入、より、舟籠入、一、
 有棚、一、より、舟籠入、より、舟籠入、一、
 舟籠入、一、より、舟籠入、より、舟籠入、一、
 舟籠入、一、より、舟籠入、より、舟籠入、一、

床

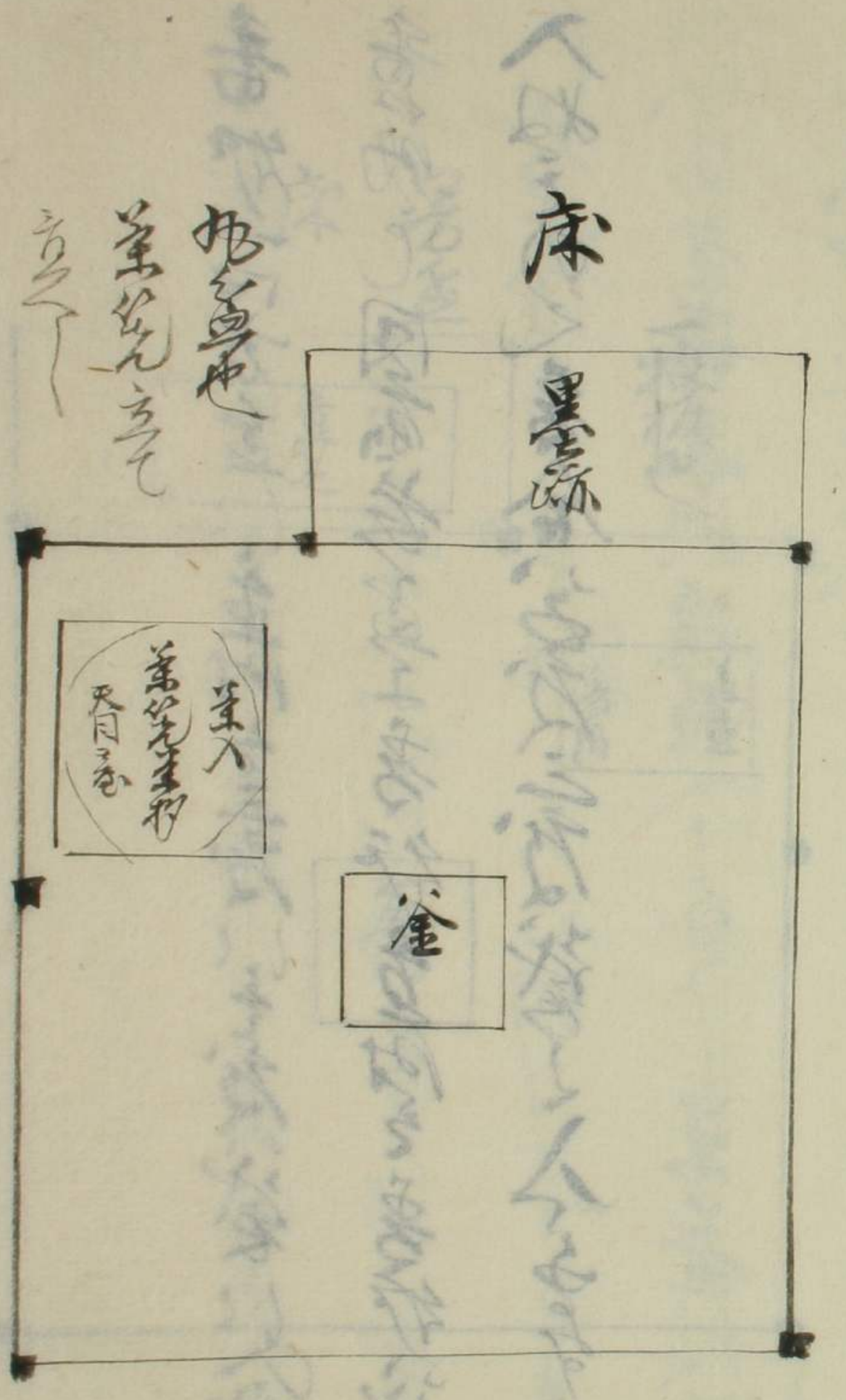


舟籠入、一、より、舟籠入、より、舟籠入、一、
 舟籠入、一、より、舟籠入、より、舟籠入、一、
 舟籠入、一、より、舟籠入、より、舟籠入、一、
 舟籠入、一、より、舟籠入、より、舟籠入、一、

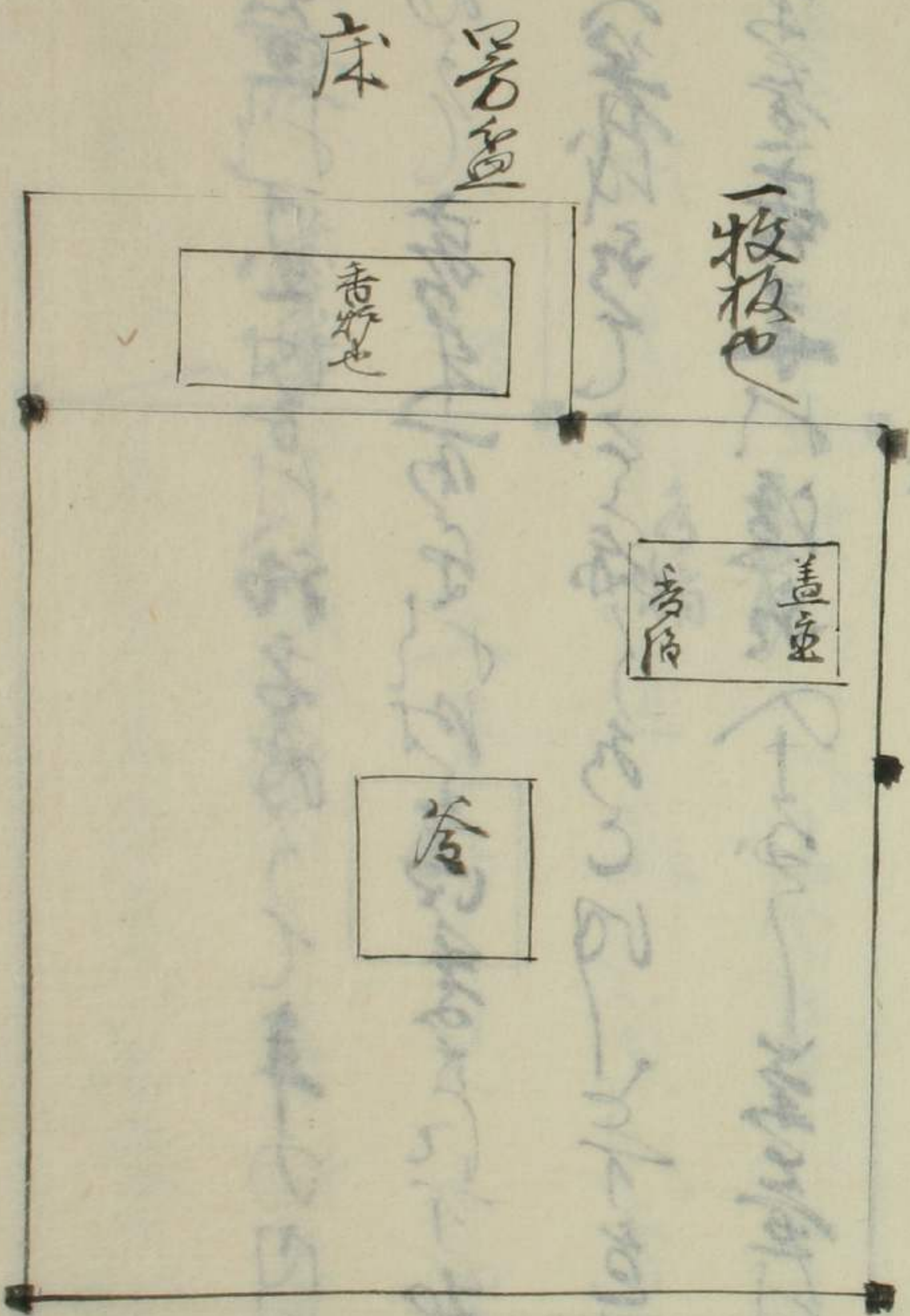
田舎裏に中に丸い窓があることと志別をいふこと
 下敷きとともいふは縁のありの袖とさきお飾りあり
 の隙をいふは中敷といふ有水霞後捧かきあり
 なるは田舎裏に中敷のよきまてまきまき右に
 角にまき捧かき外は田舎裏に中角にまき霞
 有るはまきまきも大に縁をきりてまきまき
 丸の窓は右脇にあり左脇にあり右にまきまき
 て丸い亦田舎裏に中敷にまきまきまきまき
 上にまきまき



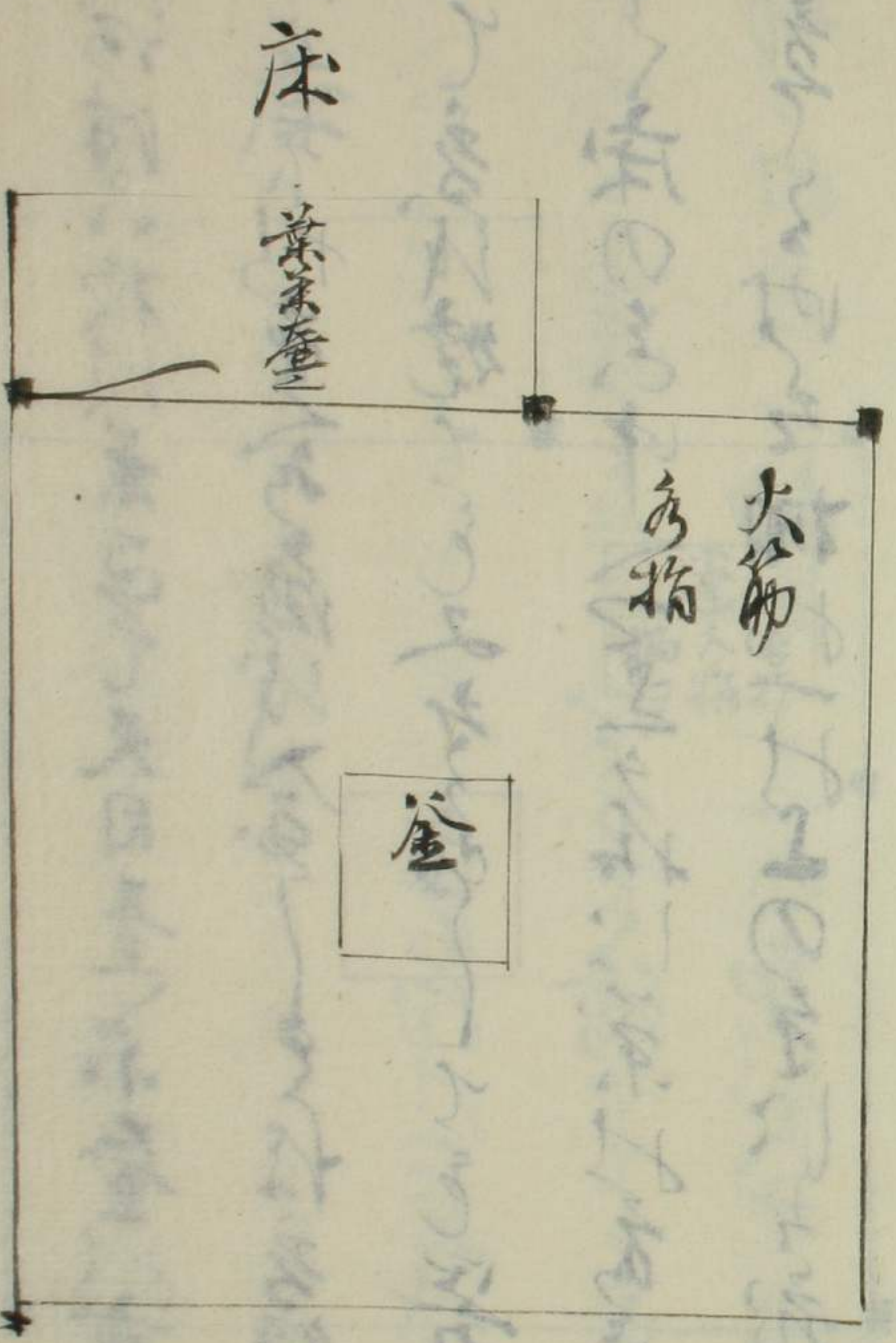
茶子て高と床（上）なる跡に（下）のしるしを
 いて高を成床と云ふ此物正角の板の通を直と
 高部とて跡を指す方とく高を成とて板床
 此物先此通（人）と字成とて（一）なる高を成と
 上中とて高と亦と高成と成なるなり



番炉一四方蓋の蓋所を二度いそ度減家以入
 番所を二回煎茶蓋子番行方所を番行減
 入ぬもの番合の及二度減茶一人おの

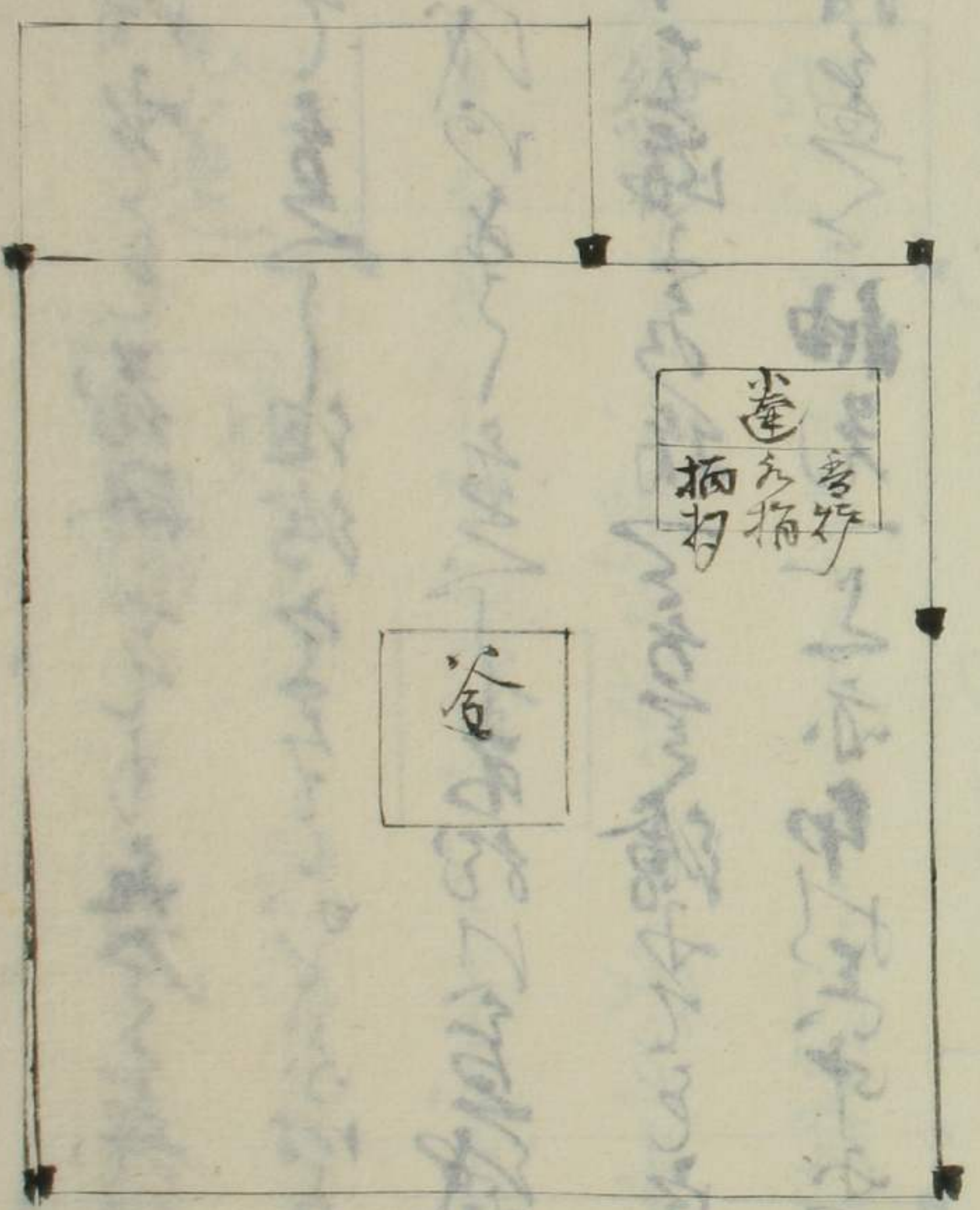


茶壺は可出付子入初名考つて一年の内は他
 名物として考来而るは所を曰妻を以て出茶壺
 に大着成りてと誦くありと可色茶壺
 は茶壺客来は後入の茶壺一茶壺は何れ
 目志中に記すべし

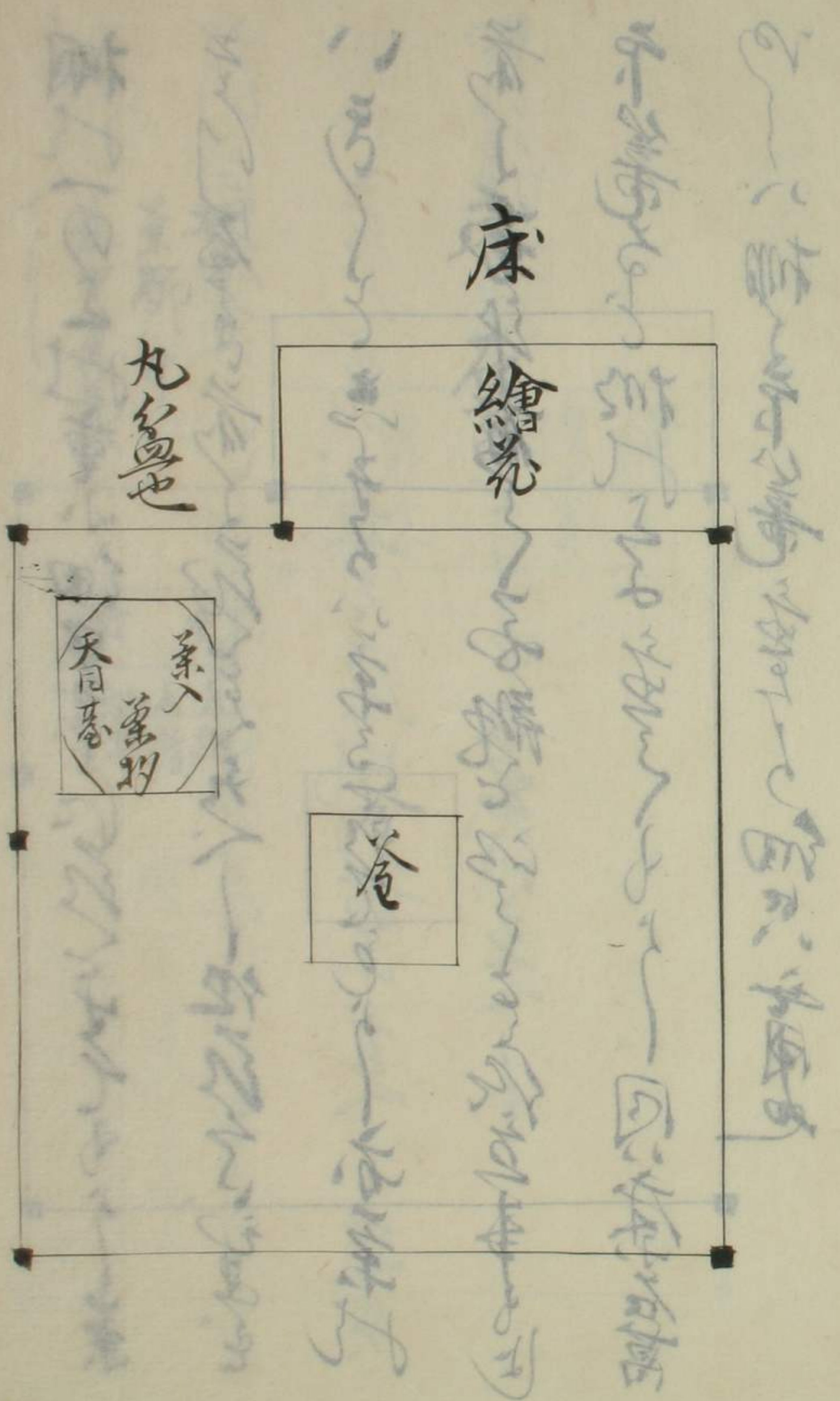


棚は河津の板に糸をて天目臺と小臺は重しと
 して並下り市を流成金一と母考行袋
 して考成焼くも又考成くしても考成
 とく座のま中へてと考成に糸は考成と考成
 一掃考成の時を棚は一掃上の糸は考成と考成
 考成も考成へ糸は考成と考成と考成

座



茶室に繪少の色花紙光の丸を置床
 之中に之を置て一細字を置く
 袖光の置て之を置く
 由りて、之海を指す方は繪少の色紙光
 色掛の時置て袖光の置て之を置く



棚の下の重小細いふとびのくわさてあり一葉
 きんし金糸の前の花もくわく一他はくわくも
 一葉のくわくもきんし金糸のくわくも一葉は
 前くわくも前くわくも前くわくも前くわくも
 下筆も前くわくも前くわくも前くわくも
 一葉のくわくも前くわくも前くわくも前くわくも

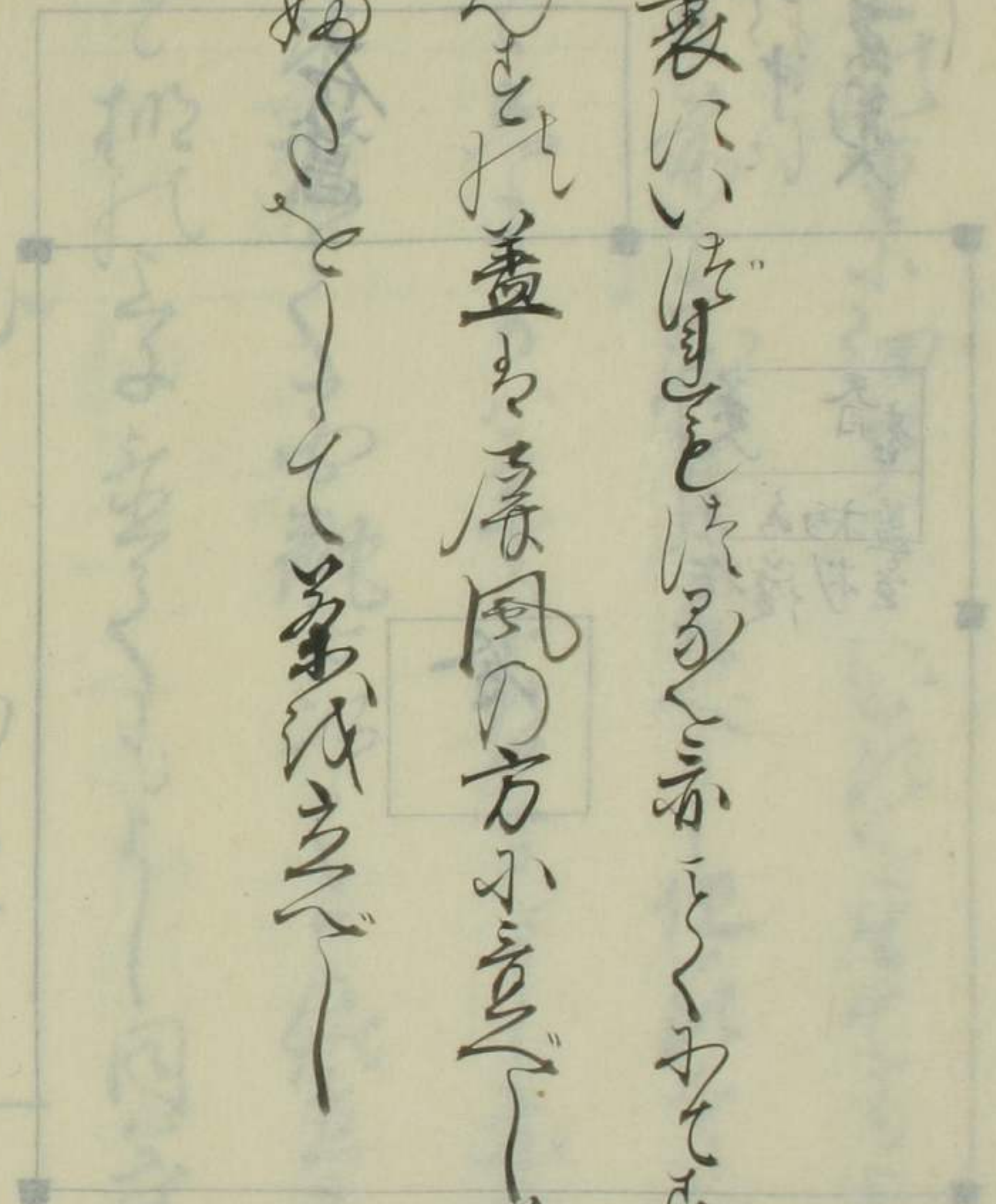
床 石草

冷

棚の
 葉尻の中
 葉中葉先
 へり

天	美
基	指
蓋	指
蓋	指

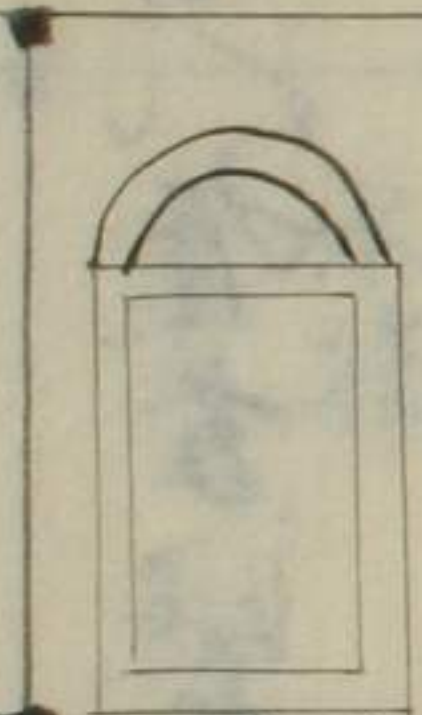
如の田植裏に、
 河のきんをば蓋も厚同の方小きく一道具
 出の境よ好くして一葉成きく一



床



水指

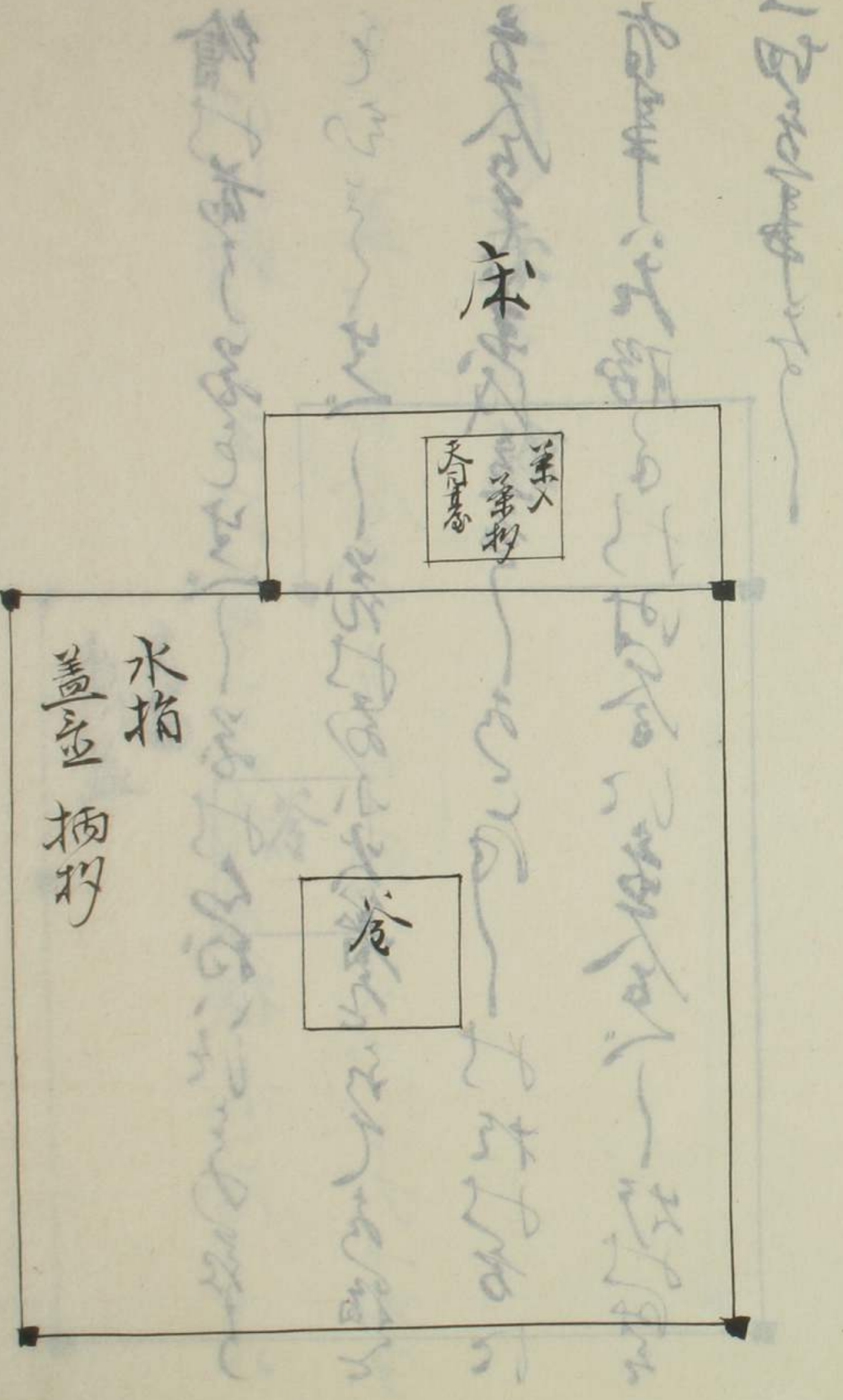


卷

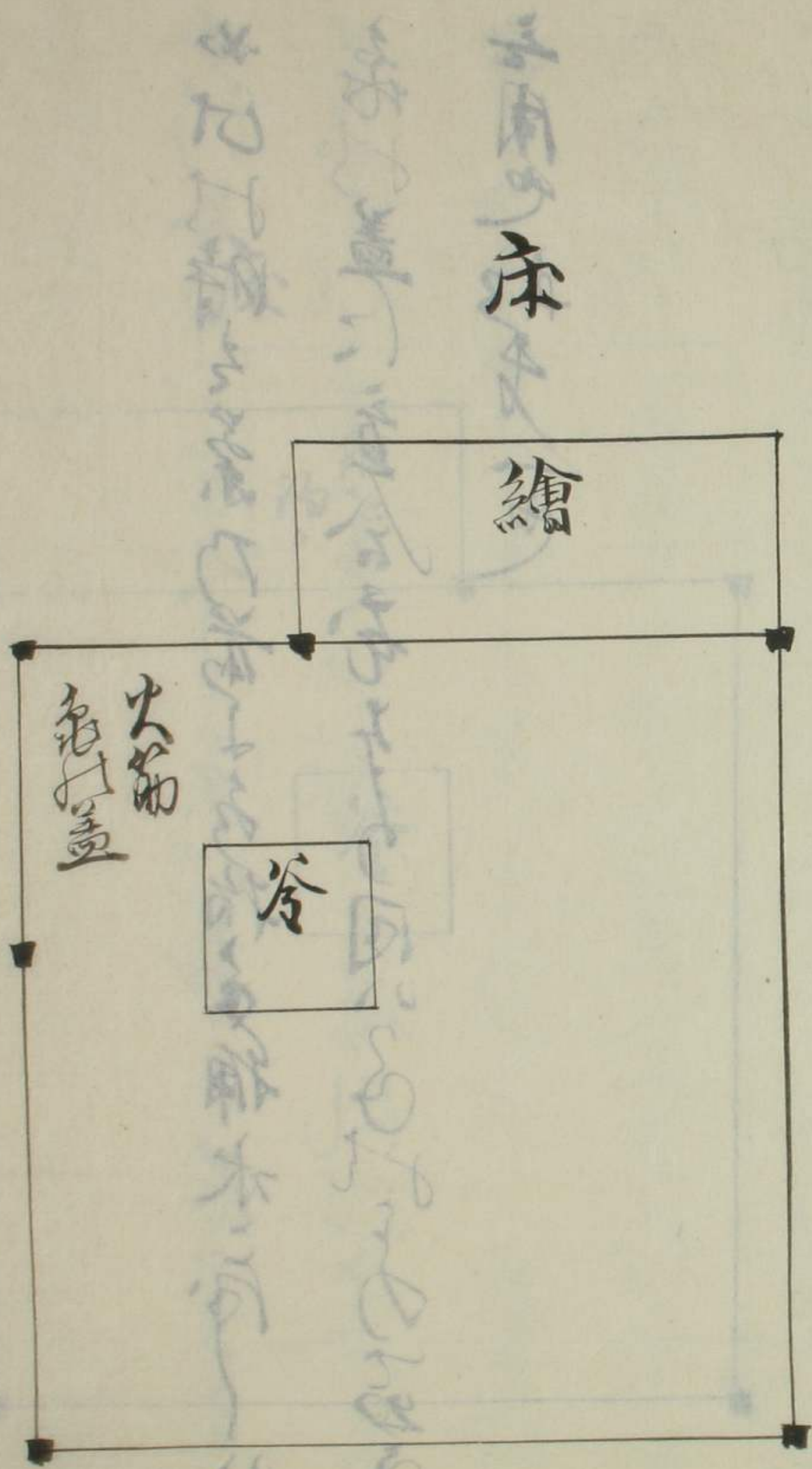
繪は常に考好考合並
 時は葉をそそぐなり成
 可なり指の中にも

此所は水指と盆と有方いふ事は兼成するは床の
 位置をわたりしりし物も河のふりしりし物も兼
 在可立す先也兼成して並置成床入り可なり
 指成板は入りしをせし物も河のふりしりし物も兼
 在可立す先也兼成して並置成床入り可なり

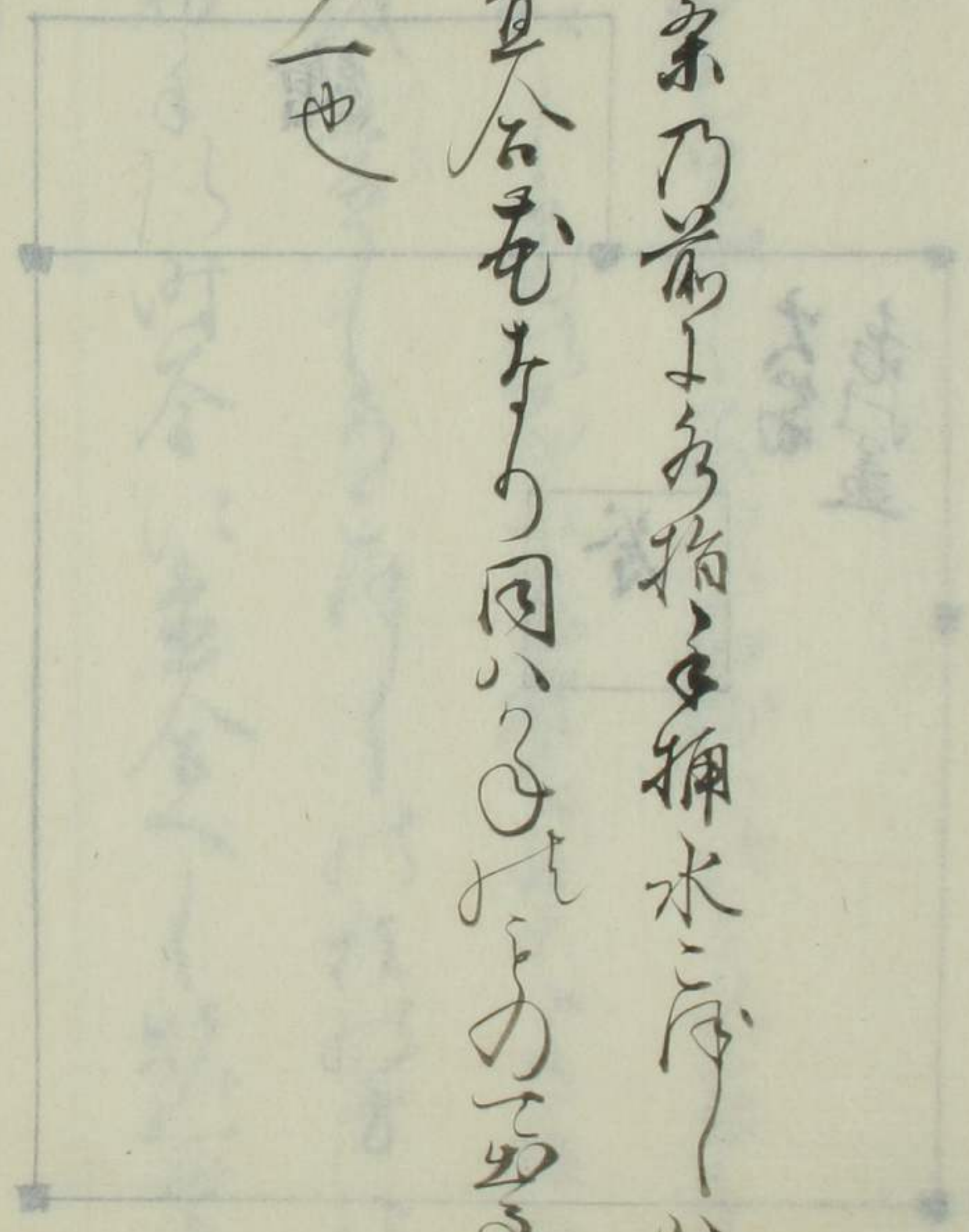
水指



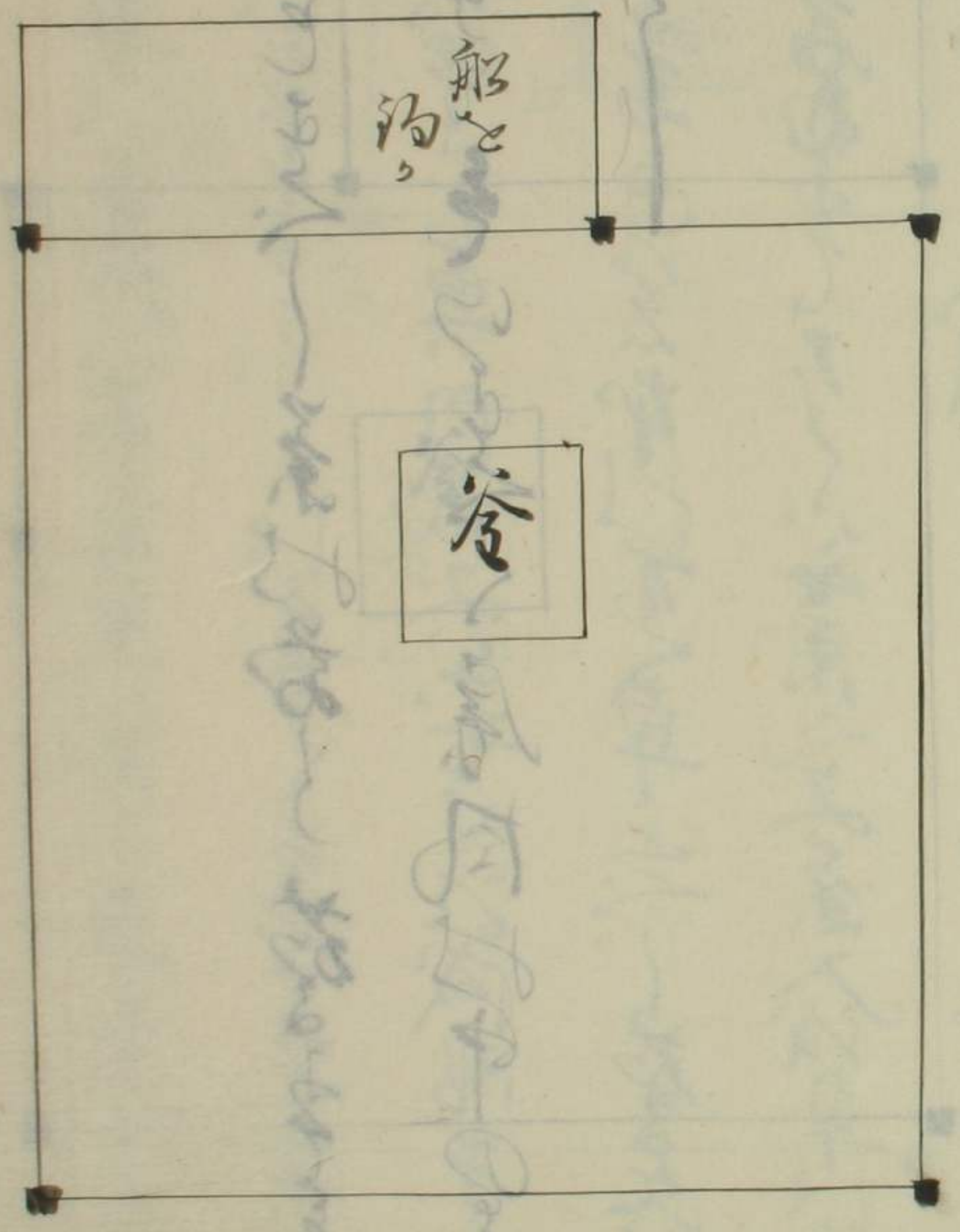
繪は前より多し生ずるは前より法より多し
と云ふは生ずるは前より法より多し
多し生ずるは前より法より多し
有るは前より法より多し
一切の事なり



此の時を業乃前より指し辨水に
 糸の蓋に直合をとり同い子よりの
 不用也船也一也



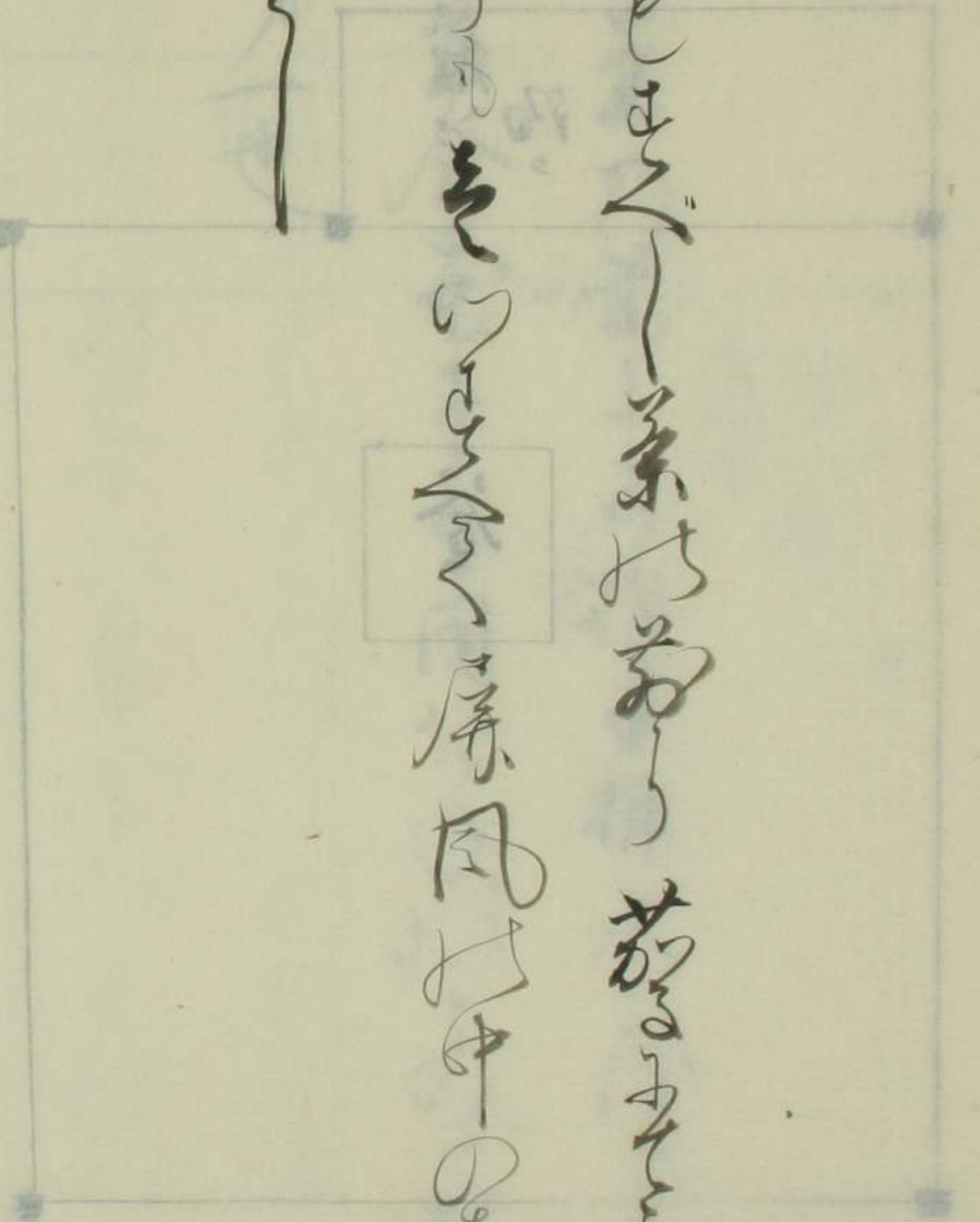
床



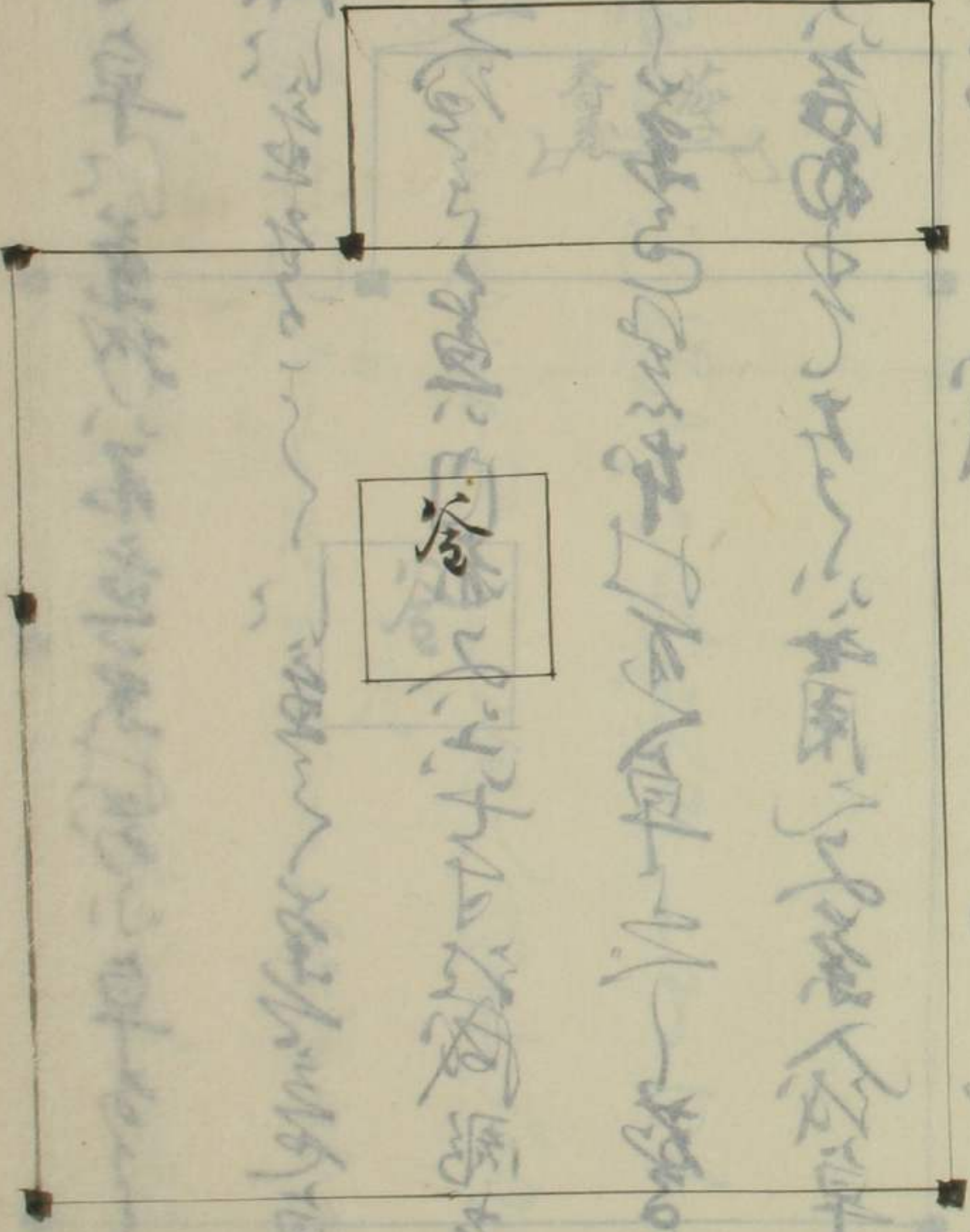
船
 泊

谷

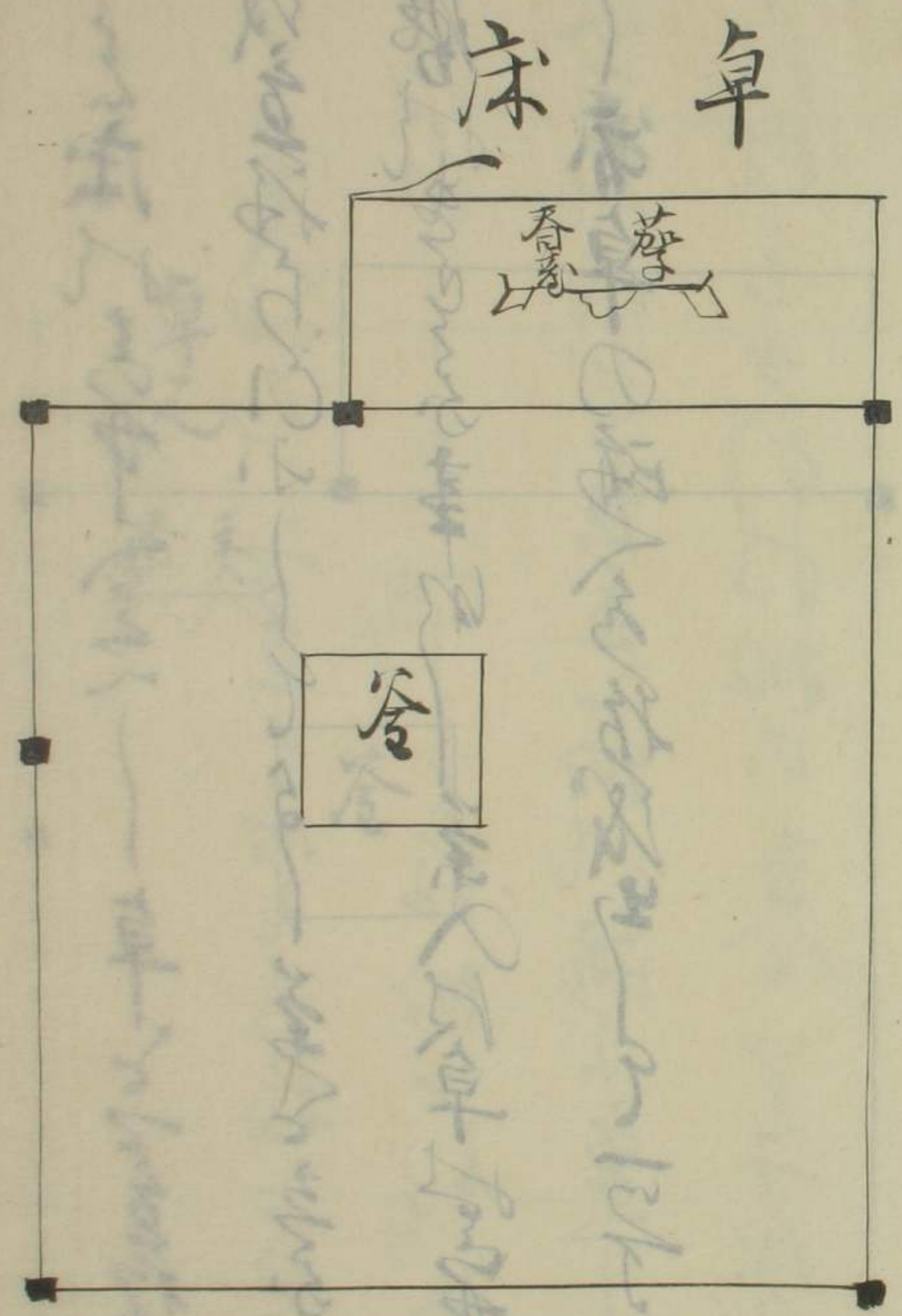
少部全斗色主一系方前(茶)茶
有衝(茶)茶(茶)茶(茶)茶
中(茶)茶



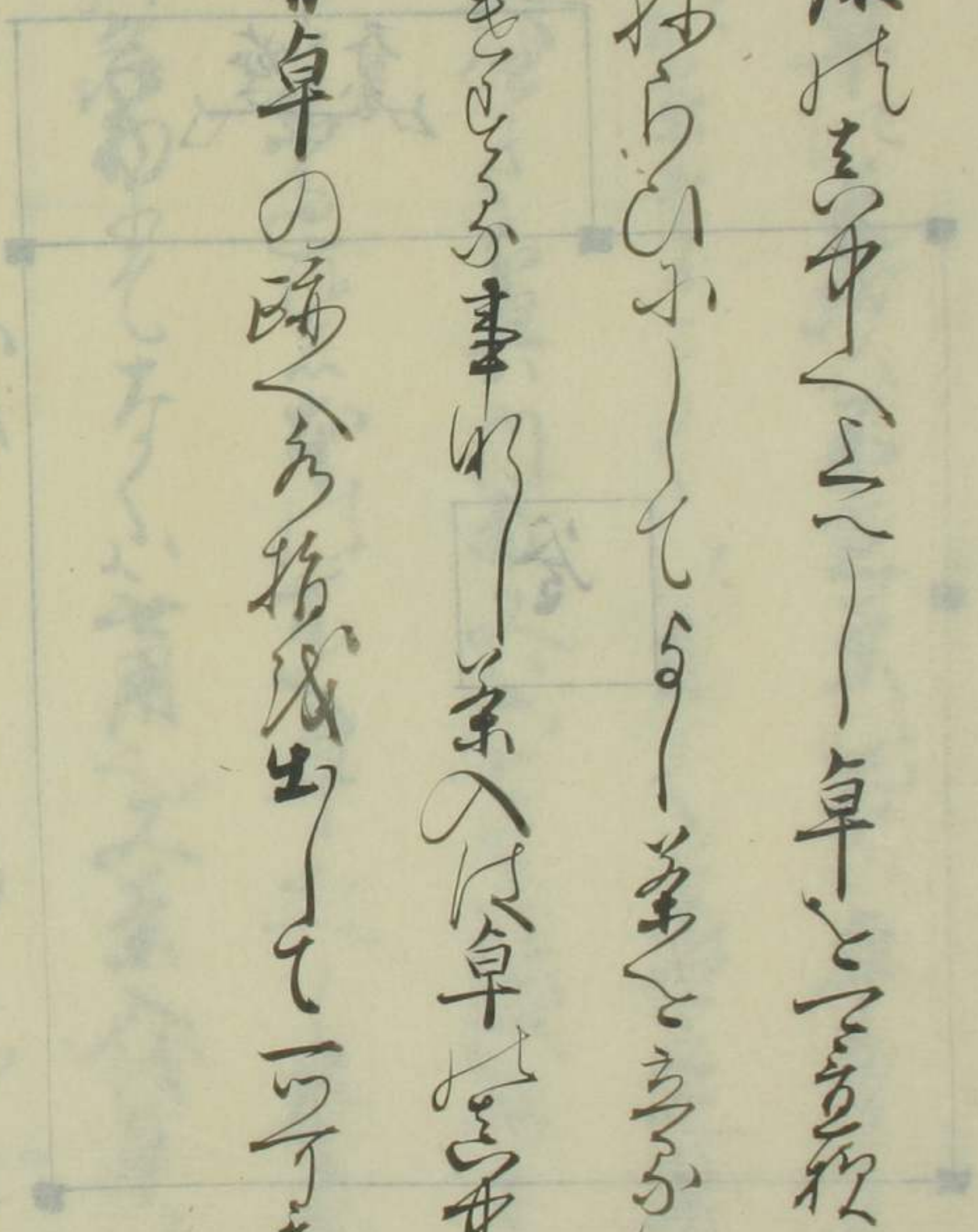
茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)
茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)
茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)
茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)
茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)
茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)
茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)
茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)
茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)
茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)茶(茶)



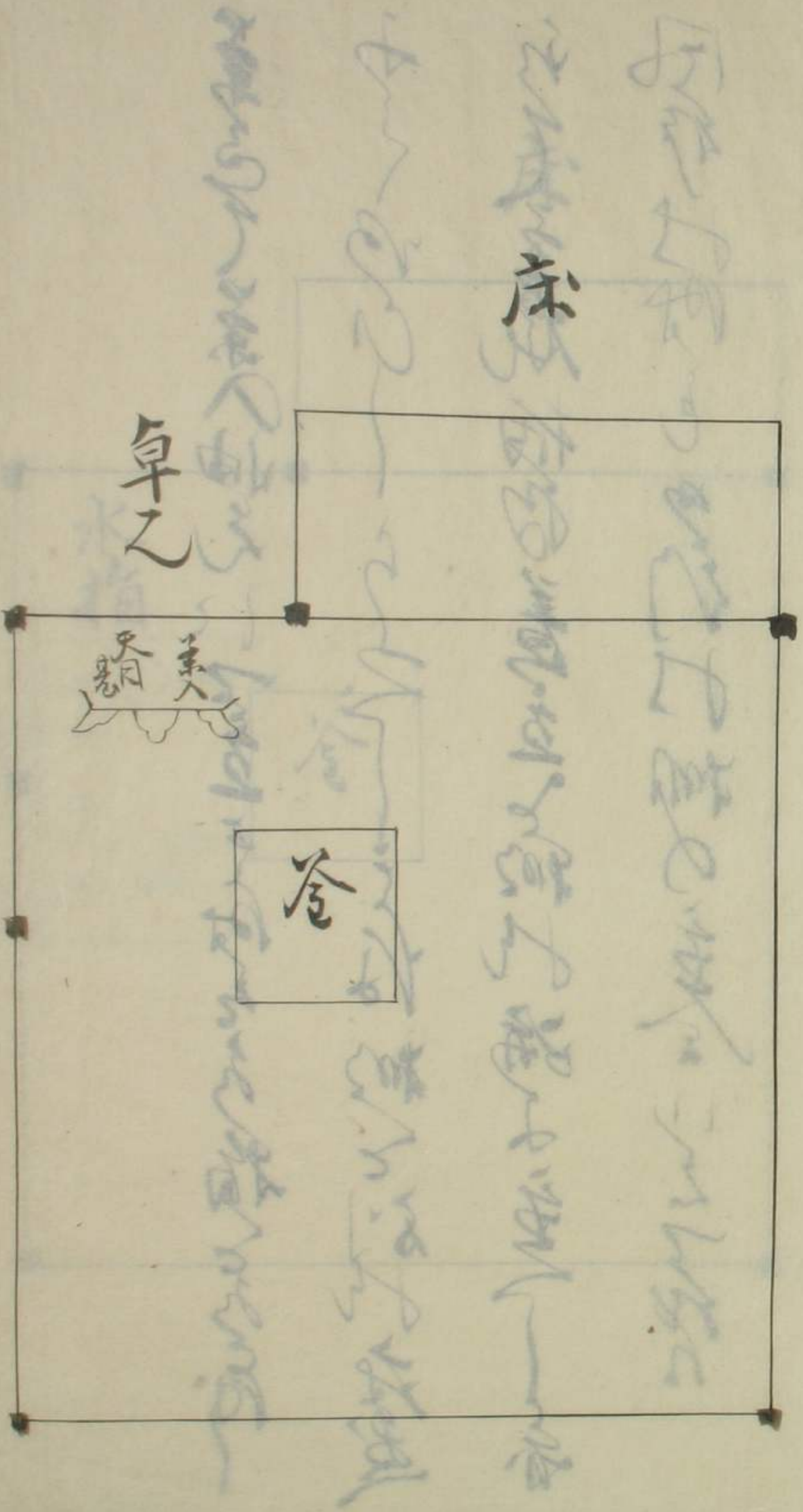
此の如き卓の茶扱は不並茶扱の卓ありて其
 ろの如き床の並をりてしるは茶の卓の
 して茶入の置るも異口亦よ二十寸の成那さる
 茶入の置るも茶の置るが卓の置るも
 肩衝ありて茶の置るも茶入の卓の置るも
 茶の置るも茶の置るも茶の置るも
 小茶の扱の卓の置るも茶の置るも
 茶の置るも茶の置るも茶の置るも
 茶の置るも茶の置るも茶の置るも



糸の... 床... 中... 卓...
 糸... 卓... 糸... 糸...
 卓... 糸... 糸... 糸...
 糸... 糸... 糸... 糸...



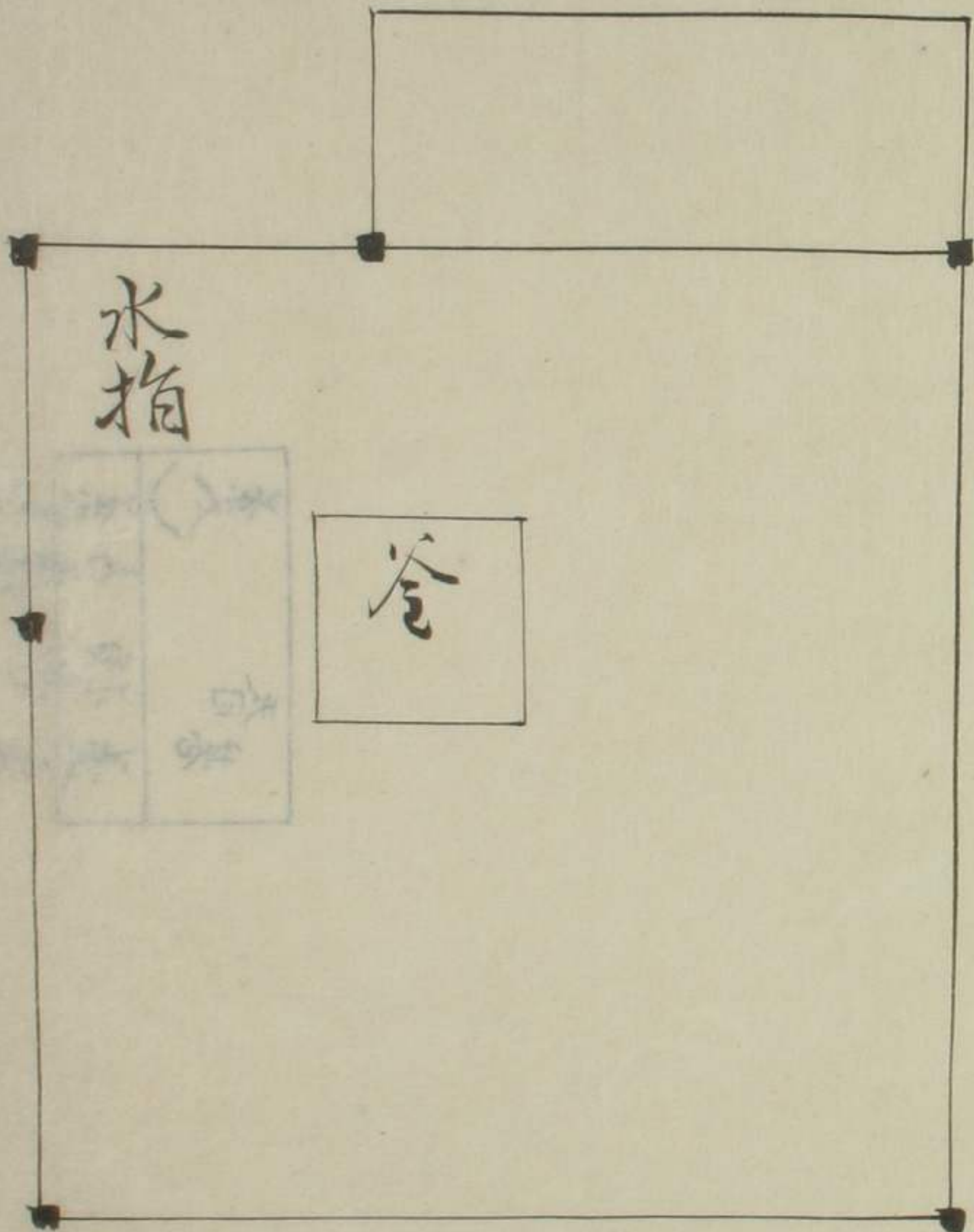
糸... 糸... 糸... 糸...
 糸... 糸... 糸... 糸...
 糸... 糸... 糸... 糸...



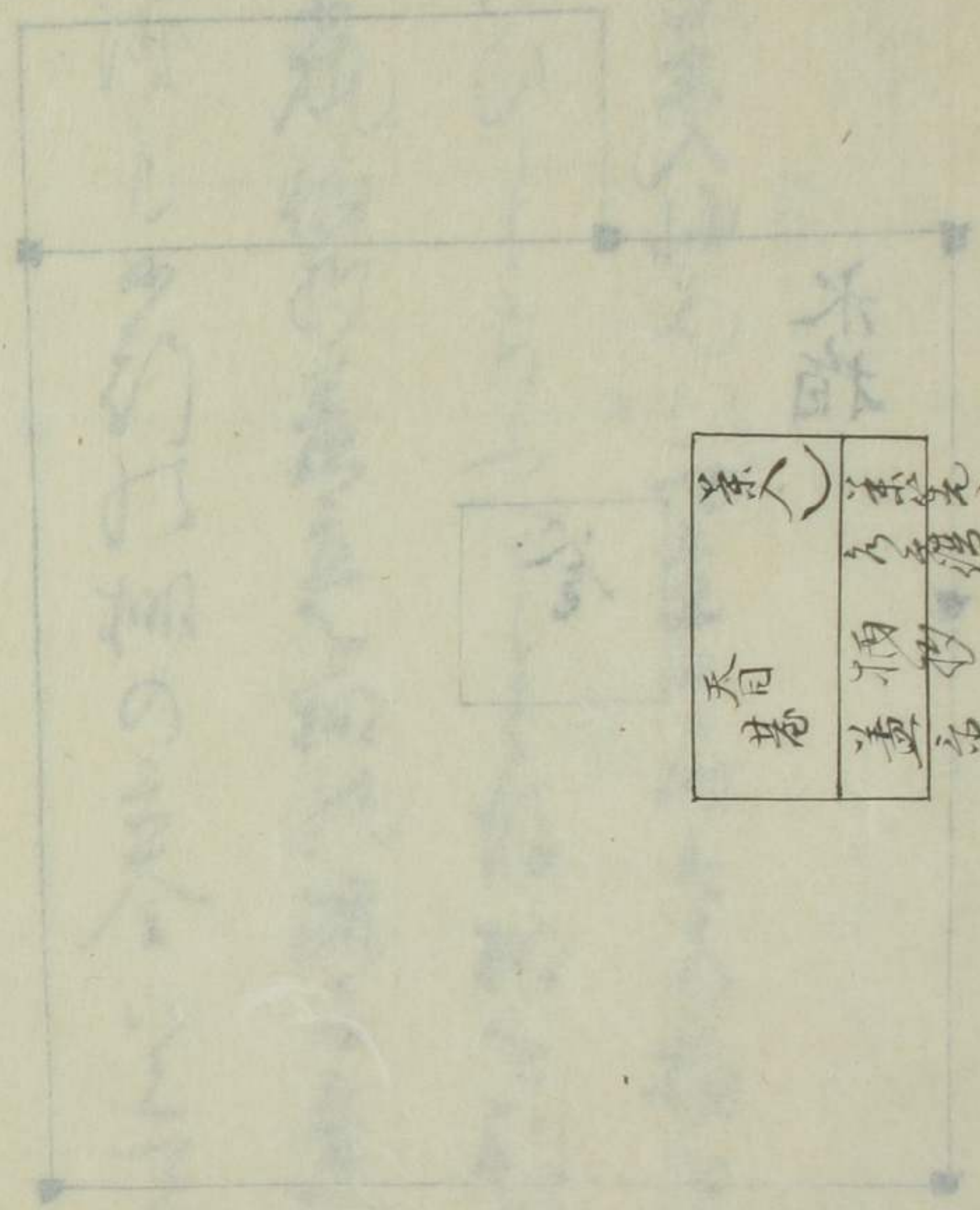
卓乙
 天美

卷

床



兼て茶入抽えに
 少くは心
 水指の巻
 同様に
 茶入
 水指



春	茶
香	茶
甚	茶
	茶

不味

家

[Faint, illegible handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

